

## 目 次

I	テーマ設定の理由	19
II	研究目的	19
III	研究仮説	20
IV	研究構想	20
V	研究内容の関連	22
	1. 研究テーマ	
	2. 研究の視点	
	3. 研究における取組事項（具体的な取組事項・特に重要視した取組）	
	4. 「教師、学校、地域・社会の包括的ウェルビーイング」	
	5. 小中高と繋がる「学びの連続性」のウェルビーイング	
	6. 教科を横断した「学びの系統性」	
	7. 授業における「学びの連続性」	
	8. 生徒と教師の「ウェルビーイング」	
VI	検証授業 1 回目の視点 9 年（中学 3 年生）「公民分野」	25
	○単元デザイン/公民指導案（9 年生）	
	○検証授業の反省と考察/アンケート/まとめ・振り返り/自己評価	
VII	検証授業 2 回目の視点 7 年（中学 1 年生）「歴史分野」	30
	○単元デザイン/歴史指導案（7 年生）	
	○検証授業①（7-2 の公開授業）/検証授業②（7-1 の検証授業）	
	○検証授業の反省と考察/まとめ・振り返り/自己評価	
VIII	検証授業 3 回目の単元デザインと指導案（指導案のみ）	39
	○単元デザイン/歴史指導案（8 年生）	
IX	検証授業の中で改めて感じた「ICT」の可能性について	44
X	研究の成果と課題	44
	1. 成果	
	2. 課題	
XI	さらに充実させていきたい取組と伝えたいこと	44
XII	参考文献	45



## 社会の形成者として課題解決に向け主体的に取り組む生徒の育成

～ウェルビーイングを意識し、単元を見通した指導計画の工夫・改善～

宮古島市立伊良部島中学校 教諭 宮國 博弥

### I テーマ設定の理由

現代社会はインターネット等の普及に伴う急激な情報化社会の進展や外国との結びつきによるグローバル化・多文化社会など、めまぐるしい発展を遂げている。未来を担う子供たちは激しい時代の流れの中で様々な課題と直面しながら生きていくことが予想され、これまで以上に予測困難な状況での判断を求められる。そのため、学校教育においても、子供たちの資質能力の育成、学習環境の整備は喫緊の課題である。また、「ウェルビーイングの向上について(次期教育振興基本計画における方向性)」の「OECD Child Well-being Dashboardにおける日本の子供たちの状況」の調査からも、「自己有用感がある」「人生に意義や目的を感じている」「人生に満足している」などの項目で「良い」と回答する子供たちの割合が低く、「自己有用感」や「自己肯定感」が育っていないことも憂慮される点である。これから社会の形成者として日本の未来を担う子供たちに「主体性(自ら学び、考え、行動する力)」を身につけさせることは、「自己有用感(自分は他者や社会の役に立っている存在)」や「自己肯定感(自分を価値のある存在)」を高めるためにも非常に重要なキープポイントである。幸い、本市においては、GIGA スクール構想により、1人1台端末や高速通信ネットワーク環境が整備され、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を進めるための環境整備(DX化)が進められている。そのうえで、教師がウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良い状態にあること)を意識した授業づくりを行い、単元を見通した指導計画の工夫・改善を推進することで「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が図られれば、子供たちは、自ら「問い」を持って課題を追求する学びの楽しさを味わうことができるものとする。

しかしながら、私の勤務校である伊良部島中学校では離島であるが故の課題も見受けられる。例えば、生徒数が少なく、単学級や少人数学級のため、「お互いの立場が固定され、競争意識が低い(切磋琢磨する場が少ない)」「社会的事象への関心が弱く、自分事として捉えにくい(当事者意識が低い)」「自ら問いを持ち、主体的に取り組む姿勢に課題がある(教師から指示待ちの生徒が多い)」等である。

これらの課題を改善し、生徒の「主体性」を育むため、本研究では「社会の形成者として課題解決に向け主体的に取り組む生徒の育成～ウェルビーイングを意識し、単元を見通した指導計画の工夫・改善～」をテーマとして掲げ、以下のことについて、具体的に検証していくこととした。

### II 研究目的

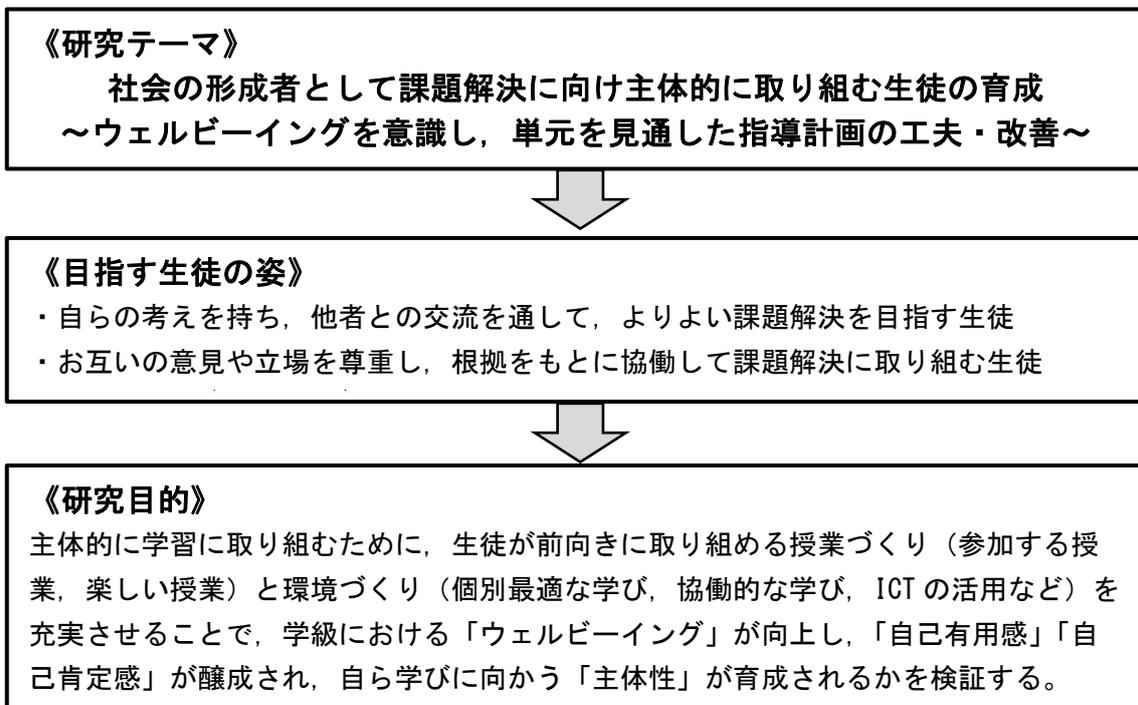
主体的に学習に取り組むためには、生徒が前向きに参加する授業づくり(楽しい授業、役に立つ授業)と環境づくり(個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用)等が基盤と

なる。その際、学級における支持的風土にもとづく「ウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態）」を充実させ、毎時間の授業の積み重ねや、小・中・高の学びの連続性を意識した教材研究、授業づくり、単元づくりを行えば、子供の学びが深まり、「先を見通す力（自ら学び、考え、行動し、未来を創り出す力）」が育まれ、主体的（自ら問いを持ち、解決しようとする）な態度の育成につながるかを検証する。

### Ⅲ 研究仮説

生徒が主体的に学習に取り組むためには、「学ぶことがおもしろい」という興味・関心と「もっと知りたい」という探究心が重要である。そのためには、「自分は人の役に立っている」という「自己有用感」を経験させることがとても大事で、その経験の積み重ねが「自らの学びが将来の役に立つ」という「自己肯定感」にも繋がる。自らの知識をもとに思考し、根拠をもって議論することで、「自分の考えを発信することが楽しい」「他者との交流によって考えが深まる」といったウェルビーイングが構築される。安心・安全な学習環境を整えることは、お互いの立場を尊重する態度の育成にもつながり、子供の学習に対する意欲も高まる。また、小・中・高という「学びの連続性」を意識した教材・教具の開発や「先を見通す力（自ら学び、考え、行動し、未来を作り出す力）」の育成を視野に入れた単元デザインを行うことで、探求的な学びが促進され、子供が自ら問いを持ち、解決していく主体的な態度も養われる。このように「ウェルビーイング」の視点と「先を見通す力」を意識した研究を進めることで、子供たちも自分の将来を見据えた「よりよい社会の実現」に向けて主体的に取り組む態度の育成が図られるであろう。

### Ⅳ 研究構想図



### 《研究仮説》

生徒が主体的に学習に取り組むためには、「学ぶことが面白い」という興味・関心と「もっと知りたい」という探究心が重要である。生徒の実態に応じて課題を設定し、「協働的な学び」「個別最適な学び」を推進することで、「自己有用感」「自己肯定感」を高め、「自立する学習者」としての「主体性」が育成させるであろう。



### 《研究内容》

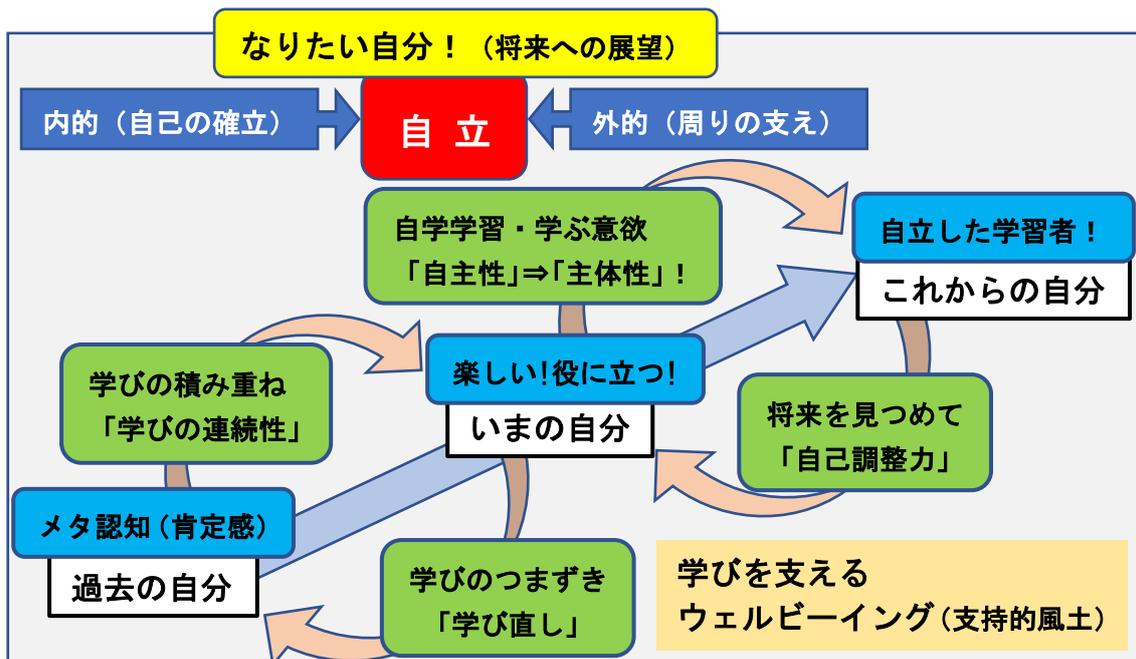
1. 単元を見通した指導計画の作成（「身につけさせたい力」の計画的な取組）
2. 小中高の「学びの連続性（系統性）」を意識した授業づくりや既習事項の活用等
3. 「自分ごと」として捉えやすい課題の設定，子供の実態に応じた授業構成
4. 「みとり」を意識した，評価の適正化（指導と評価の一体化）
5. 学びを充実させる基盤となる「学級における支持的風土を生かしたウェルビーイング」の推進・研究



### 《授業改善の視点》

1. ウェルビーイング（心身ともに良好な状態、幸福で満足できる状態）
  - ・ 学級の支持的風土づくりと参加しやすい課題の設定 → 学習への自主性・主体性
  - ・ 小中の「学びの連続性」を意識した学習の積み重ね 「学ぶ喜び・充実感」
2. 見通しを持たせる（身に着けさせたい力）
  - ・ 「何ができるようになるか」を意識した授業づくり → 学び続ける主体性
  - ・ 単元計画の共有，将来に向け社会の一員としての自覚 「自立した学習者」の育成

### 【研究のイメージ図】



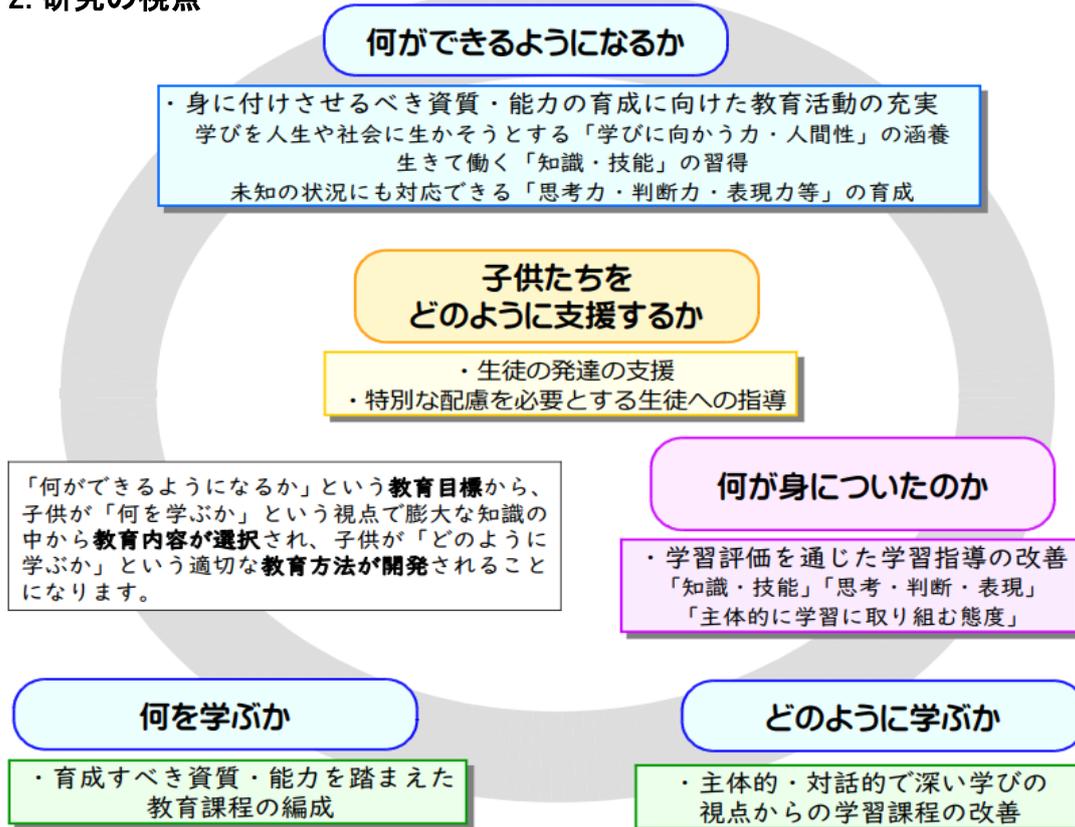
## V 研究内容との関連

### 1. 研究テーマ

社会の形成者として課題解決に向け主体的に取り組む生徒の育成  
～ウェルビーイングを意識し、単元を見通した指導計画の工夫・改善～



### 2. 研究の視点



### 3. 研究における取組事項

#### 【具体的な取組】

- (1) 単元を見通した指導計画を作成する。(系統立てて単元計画を作成することで、基礎的基本的事項を理解させ、学びを深める単元づくりに取り組む。)
- (2) 小中高の「学びの連続性(系統性)」を意識した授業づくりや既習事項の活用等を行う。(小中高の連携を意識し、考察の仕方や参考資料の活用を生かす)
- (3) 自分ごととして捉えやすいよう、子供の実態に応じた具体的な事例(問い・教材・教具)を交えた授業構成とする。(根拠に基づく思考の場面を設定し、自らの考えをもとに他者と交流させることで、社会的視野を広げ、よりよい解決を目指す。)
- (4) 子供の「見取り」を意識し、評価の適正化を図る。(指導と評価の一体化)
- (5) 学びを充実させるため、学級における支持的風土を生かしたウェルビーイングの推進・研究に取り組む。(生徒間、生徒と教師、教師間、保護者や地域、関係機関との協力関係など、生徒の主体性を育むためのウェルビーイングの研究・推進)

【今回の研究で特に重要視した取組】

◎社会的形成者として課題解決に向け主体的に取り組む生徒の育成

(1) 「日本型ウェルビーイング」

他者と協働して「よりよい社会の実現」に向けて主体的に取り組む態度

○ウェルビーイング（心身ともに良好な状態、幸福で満足できる状態）のために

・学級の支持的風土＋参加しやすい課題＋小中の学びの連続性＝主体性が醸成

(2) 「先を見通す力」

自ら学び、考え、行動し、未来を創り出す力の育成

○見通しを持たせる（身に着けさせたい力）ために

・「何ができるようになるか」を意識した単元デザイン・授業づくり

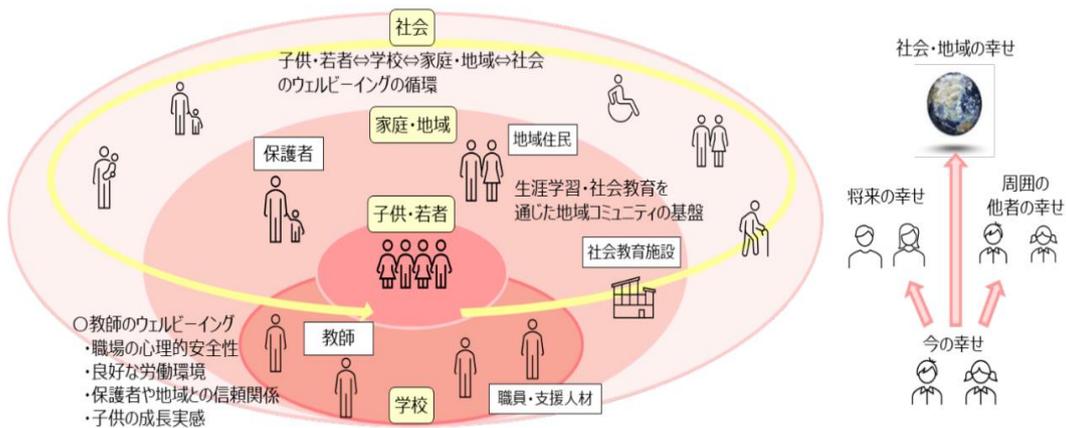
課題解決→理解する（考えの根拠）＋解決したい（交流の場）の位置づけ

・生徒に「自己有用感」「自己肯定感」を感じさせるための「自己決定」「交流」

「自分ごと」として→無気力く自主性く 主体性く 「自立した学習者」へ！

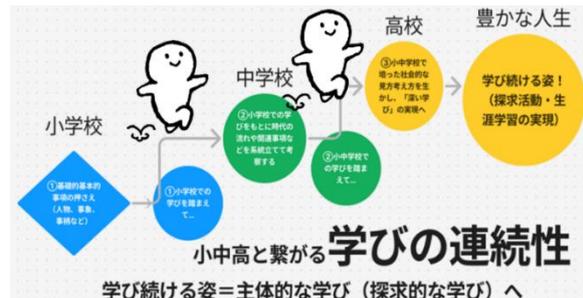
4. 「教師、学校、地域・社会の包括的ウェルビーイング」＝お互いの繋がり

生徒同士，教師と生徒，教師間，保護者や地域，関係機関との繋がりを重視し，安心・安全な環境の構築を目指す。「自立した学習者（自己の確立，まわりの支えによる自立）」の育成のためのコミュニティづくりを推進する。



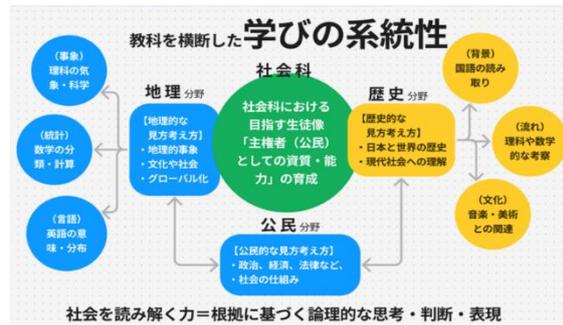
5. 小中高と繋がる「学びの連続性」のウェルビーイング＝学びの積み重ね

小学校の学び（人物や事象などの押さえておきたい重要語句）が，中学校の学び（小学校での学びをもとに関連性や時代の流れなどのつながりを理解）に繋がり，高校では，これまでの学びを踏まえ，さらに広い視野（世界や時代の共通性や差異をもとに）で社会的なものの方の見方・考え方を深める学びを実現する。身につけた資質能力を生かし，将来にわたって学び続ける豊かな人生を目指す。



## 6. 教科を横断した「学びの系統性」＝分野や教科を超えて学んだ知識の応用

社会科の分野にとらわれず、それぞれの知識を交えて学習したり、他の教科の学びを生かして考えたりと視野や知識などを広げて包括的な考え方ができるようになることで、よりよい解決策を導くための素養ができ、豊かで柔軟な発想（思考・判断・表現）に繋げる。



## 7. 授業における「学びの連続性」＝単元デザイン重視「どこで何を学ぶのか」

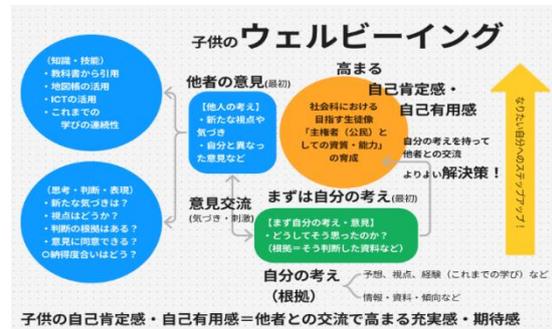
1時間の短期的な学びではなく、前時の学びが本時の学びにつながり、本時の学びが次時の期待感に繋がる。学びの流れをつないでいくことで、知識や視点、物事の考え方などの「学び」が積み重なり、多面的な視点を身につけ、社会の形成者としての資質能力を育成していくことができる。



## 8. 生徒と教師の「ウェルビーイング」＝安心安全な環境づくり

### 〔子どもの安心安全〕

課題に対して自分の考えを持ち、それを他者と交流して考えを深め、よりよい解決策を追求することで、社会の一員としての自覚を味わわせ、「自己有用感」を持ち、「自立した学習者」に向けて、「自己肯定感」を高めていくことができる。



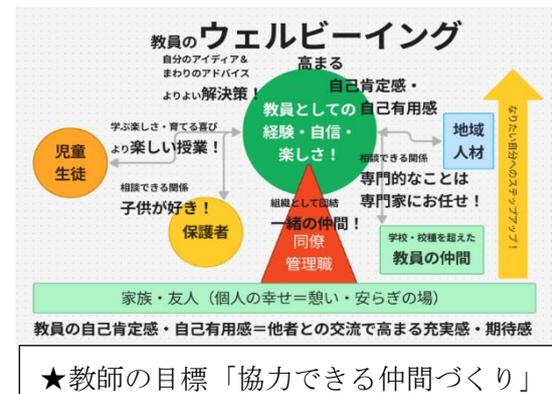
★生徒の目標「なりたいたい自分へのステップアップ」

### 〔教員の安心安全〕

教師と生徒、教員間、保護者や地域人材など、まわりとの協力関係を重視することで、孤立を防ぎ、教員のウェルビーイングの向上を目指す。一人で抱え込まずに頼れる(頼られる)関係を構築することで、個人の負担感・孤立感を減らし、精神的・時間的安定を大事にする。

《コミュニティの例》

- ・チャット Room 等による教材や情報の共有
- ・相談し合える仲間(教員間・保護者や地域人材等)のコミュニティづくりの推進



★教師の目標「協力できる仲間づくり」

## VI 検証授業 1 回目の視点 (9 年 (中学 3 年生) 「公民分野」にて)

第 1 回目の検証授業では、最上級生に当たる 9 年生 (中学 3 年生) を対象に単元構成や授業を組み立ててみた。授業づくりの視点は、自己決定の場を提供し、共感的な人間関係を育成する「子供のウェルビーイング」である。

右の表は全国で行った「自己肯定感の性別・学年別平均値」である。表からは男女とも年代が上がるにつれて「自己肯定感」が低下している (特に女子の自己肯定感の低さが目立っている) ことが顕著に現れている。これは本校においても同様の傾向が見られ、学年が上がるにつれ、その傾向が強まっている。今回の検証授業の対象である 9 年生は授業中の発言も多く、学級におけるウェルビーイングの環境は高まっているものの、一部の生徒の発言力が強く、他の生徒はその意見に依存している場面が多く見られる。そこで改善策として、誰でも「参加しやすい課題」を設定し、全員が自分の考えをもとに議論する場面を単元の中に多く盛り込んでみた。自分の考えがまわりの役に立つという「自己有用感」を味わわせ、その学びが自信となり、将来にも繋がるキャリア教育の観点から「自己肯定感」を高めさせようという構成である。

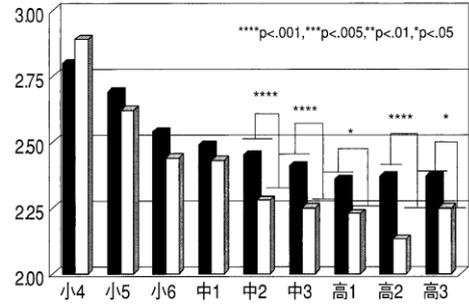


Figure 1 自己肯定感の性別・学年別平均値

■ 男子平均 □ 女子平均

「ウェルビーイング」の視点を単元に盛り込み、自分の意見を主張できる喜びとまわりがそれを尊重してくれる体験を積み重ねることで、学級における安心安全な「支持的風土」も醸成される。そのことによって意見交流も活発になり、「自分の考えを発信することが楽しい」「他者との交流によって考えが深まる」といった社会の一員としての自覚を深めることや「自立する学習者」の育成につながるかを検証する。

### 1. 「ウェルビーイング」の視点にもとづいた単元デザイン

**社会科【公民】第3部第1章第4節「これからの日本経済 (5/5)」 授業者：宮國博弥 学級9年1組**

**単元のねらい(ゴールの姿)** 単元(第1章「経済活動と私たち」)を貫く問い  
私たちの社会を豊かにするために、経済にはどのような動きがあるのだろうか。

第4節の問い	『世界経済の変動の中で、日本経済にはどのようなことが求められているのだろうか』	『経済活動と私たち』を貫く問い
<b>知識・技能</b> 景気変動の仕組みや日本銀行の役割などに着目して、日本経済の特色を理解するとともに、グローバル化や経済活動のデジタル化が進む中、日本経済の課題について、さまざまな情報手段を活用して収集し、有効な情報を適切に選択して、読みとりたり図表などにまとめている。	<b>思考・判断・表現力等</b> 日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> グローバル化や経済活動のデジタル化が進行する中、日本経済に見られる課題について、主体的に問題解決しようとして、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

公民的な見方・考え	公民的な見方・考え
・社会の仕組みや問題点を深く理解する ・自ら課題を見つけ、解決策を考案出す	・多様な価値観を尊重し、対話ができる ・民主的な社会の一員として主体的に行動する
<b>多様な価値観の尊重</b> ・異なる意見や価値観が存在することを認め、それぞれの立場を理解しようとする態度	・異なる意見や価値観から考察し、多様な解決の可能性を認めようとする態度
<b>多角的な視点</b> ・ひとつの問題に対して、様々な角度から考察し、多様な解決の可能性を認めようとする態度	・与えられた情報や意見を踏まえず、根拠に基づいて評価し、自ら判断する態度
<b>批判的思考</b> ・与えられた情報や意見を踏まえず、根拠に基づいて評価し、自ら判断する態度	・現在の社会問題が、過去の出来事や社会構造とどのようにつながっているのかを考察する態度
<b>歴史的な視点</b> ・現在の社会問題が、過去の出来事や社会構造とどのようにつながっているのかを考察する態度	・異なる社会や文化を比較し、それぞれの特色や共通点を理解する態度
<b>比較の視点</b> ・異なる社会や文化を比較し、それぞれの特色や共通点を理解する態度	・社会現象を、個人や組織だけでなく、社会構造や制度との関連性の中で捉える態度
<b>構造的な視点</b> ・社会現象を、個人や組織だけでなく、社会構造や制度との関連性の中で捉える態度	・社会問題や制度の形成を、その背景や条件から理解し、そのように機能しているのかを考察する態度
<b>現実的な視点</b> ・社会問題や制度の形成を、その背景や条件から理解し、そのように機能しているのかを考察する態度	・社会問題の解決に向けて、自ら主体的に行動しようとする態度

**○単元デザイン(5時間構成)**

1. 景気の変動とその影響

○消費者・企業の視点で景気変動をとらえる

2. 日本銀行と金融政策

○政府・日銀・国民の視点で金融政策を考える(金融の仕組みと日銀の役割を理解する)

3. グローバル化と日本経済

○企業の視点で為替を理解し、グローバル化を考える(日本と海外の繋がりを大観する)

4. これからの日本の経済と私たち

○国民の視点で日本の課題と対応策を考える(経済活動のデジタル化やAI等)

5. 単元のまとめと検証

・経済や金融、為替などを知り、多様化・グローバル化していくこれからの、どう自分らしく生きていきたいかを考える(自己決定)

・授業についての検証を生徒と共に行う

**【視点3】自学自習力**

- 自己を見つめ、考える教材の活用や宿題等
- 重要語句・調べ学習等の自学・家庭学習
- 家庭での授業の共有(家庭での会話等)
- 学びの実感など

**【視点4】ICTの効果的な活用**

- ビデオや資料の活用
- 生徒の思考やまとめに活用

**「経済」や「金融」「為替」等を学ぶことで**

**自分の将来をどう豊かにしていくか?**

**「ウェルビーイング」の醸成**

**【視点1】「主体的・対話的で深い学び」**

- 立場を変えて「自分ごと」として捉え、考える場面
- 自己と他人の考えや意見などを交流させる場面
- 「学び」を他人の将来にどう生かすか考える場面

**【視点2】学習評価**

- 自己評価の活用
- クラスメイトからの評価
- 教師からのフィードバック等

**目指す子どもの姿(学習観)：何が出来るようになるか～育成する資質・能力～**

**【知識・技能】**

- 景気の変動とその要因について理解する

**【思考・判断・表現】**

- 金融が家計や企業に与える影響について考える

**【主体的に学習に取り組む態度】**

- 身近な生活や経済の動きと関連させて考え、将来を見通す力をつける(デジタル化、AIなどの普及、自分の将来像)

**○終末(まとめ・振り返り)**

生徒の感情：なるほど! 確かに! ためになる!

- ・A: 学びを今後に生かしたい(役に立つ)
- ・B: 学ぶ楽しさを感じている(分かる喜び)
- ・C: 振り返り(最終的な自分の考えを記入)

☆単元の検証=生徒からのアドバイス(こうした方がよい、ここが良かったなど)

**目指す授業の姿(指導観・子供の姿)**

- 授業にのぞむワクワク感!
- 面白そう・役に立つかも
- 授業での気づき・新たな問い!
- 「そういえば!」もっとう知りたい!
- 繋がる知識→知恵へ!
- ・学びが繋がる喜び・豊かな人生
- 高まる自己肯定感=自己有用感!
- ・自分の考えや他人の考えを認める

☆授業の検証から(ここが良かった、この方がよいのでは?よく分からなかった点など)

25

## 2. 「主体的・対話的で深い学び」を目指した公民指導案（9年生）

### ◎本時の「ウェルビーイング」の視点

【第4節「これからの日本経済」でのねらい】  
「経済」や「金融」「為替」等を学ぶことで  
**自分の将来をどう豊かにしていくか？**

### 【視点1】「主体的・対話的で深い学び」

- 立場を変えて「自分ごと」として捉え、考える場面
- 自己と他人の考えや意見などを交流させる場面
- 「学び」を自己の将来にどう生かすか考える場面

R.6 授業プランシート（社会科「公民」） 12月 9日（月） 9年 1組（男子15名、女子17名：合計32名）

単元名 第3部「経済」第1章「市場経済」第4節「これからの日本経済」

（2/5）「2. 日本銀行と金融政策」

授業者：宮國 博弥（社会科教諭）

1 本時のねらい	
1. 日本銀行の役割を理解できる。	（評価場面方法）
2. 金融政策の特色を理解し、金融政策が企業や私たちの生活に与える影響を考慮することができる。	○「振り返りシート」まとめにおけるそれぞれの「分かったこと、考えたこと、疑問に思ったことなど」の記入
2 めあて、まとめ、振り返り	
（まとめ） 日本銀行が、経済の安定化のために、世の中に出回るお金の量を増やしたり、減らしたりすることを説明できたか。	（めあて） 日本銀行は日本経済の中でどのような役割を担っているのだろうか。
（振り返り） 「学習後の振り返り」を記入させ、学習前の予想と比較させる。 <b>（※実際に行っている「金融政策」と、私たちの「生活感」に違和感は無いか？→次時の「財政」への布石）</b>	
3 本時の展開	
【導入】	
(1) 前時の確認→（例）景気変動、好景気・不景気、インフレ・デフレなど	
(2) 発問「景気変動への対策は何か良い方法はないだろうか？」 →ヒントとしてお金（貨幣＝日本銀行券）をみせる →日本銀行は「中央銀行」であり、お金（貨幣）を発行（印刷）できる「発券銀行」である。 ○自分たちでお金を発行できる銀行ある＝「金融政策」を行える。	
(3) 資料提示 P.147「1. 金融政策を発表する日本銀行の黒田総裁（2013）」 教師から発問「日本銀行がこのような政策を発表したのはなぜなのだろうか」→生徒が自分で予想を立てる	
(4) 予想を検証する「めあて」の提示。「 <u>日本銀行は日本経済の中でどのような役割を担っているのだろうか。</u> 」	
【展開】	
(1) お金の定義を行う。 ①お金って、どんな価値があるの？ →みんなが同じ価値を共有することによって <u>物々交換</u> で無く、 <u>貨幣</u> による買い物が可能になる。 ②すぐに使えるお金（ <u>現金通貨</u> ）と銀行に預けられたお金（ <u>預金通貨</u> ）がある！（※ <u>デジタル通貨</u> も含む）	
(2) 政府と日本銀行による「 <u>金融政策</u> 」を <u>ロールプレイング（ペア）</u> してみよう！	
〔条件：宮古島の平均年収で考える生活費を考慮する、ペア（夫婦）で相談して判断する、時間内に判断する〕 （沖縄県の年収中央値は、2012年時点で330万円、宮古島の平均年収）	
《参考データ》 ○全国と沖縄県の格差1.96倍 厚労省の令和3年度の毎月勤労統計地方調査（参考データ） ・全国：平均月収36万9千円 ・沖縄県：平均月収18万8千円 ・宮古島市：平均月収18万7千円	

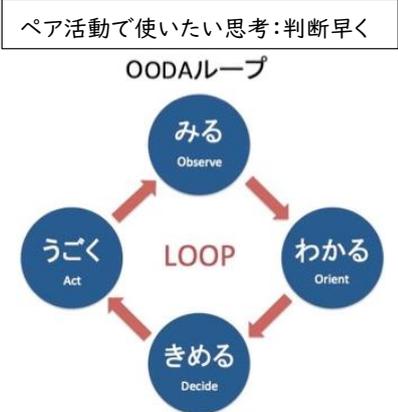
《1990年後半以降、ものの値段が下がるデフレが続いている…》

- ①2013年、デフレへの懸念から…
  - 首相役「長年続いているデフレ(ものの値段が下がる)対策としてお金をどんどん印刷して配ろう!」
- ②日銀による「金融政策」
  - 日銀総裁役「金利(利率)を下げます! 2年間でみなさんのまわりにある通貨量を2倍にします!」
- ③銀行による貸し出し(日銀から回ってきたお金を貸し出して儲かりたい)
  - 銀行員役「これから2年間で、みんなの手元にあるお金(通貨量)が2倍に増えます!
    - 銀行から借りる利率も下がるので、今が欲しいものを購入するチャンスですよ!」
- ④消費者としての[判断1]=ペアで判断する。  
I.住宅をローンで購入 II.乗り物をローンで購入 III.電化製品・家具などをローンで購入 IV.利用しない  
(※生徒の判断に「善し悪し」は無し。どうして、そう判断したのか、考えた「根拠」をしっかり持ちたい。)

(3) グループで自分たちの判断を共有(どういった判断になったのか?どうして、そう判断したのか?)

《2年後…》

- ⑤まだまだ脱却できないデフレへの懸念
  - 首相役「デフレ(ものの値段が下がる)対策がまだ足りない!
    - さらにお金をどんどん印刷して配ろう!」
- ⑥日銀による「金融政策」
  - 日銀総裁役「金利(利率)を下げます! 今後2年間で通貨をさらに2倍にします!トータル4倍です!」
- ⑦銀行による貸し出し(日銀から回ってきたお金を貸し出して儲かりたい)
  - 銀行員役「これから2年間で、みんなの手元にあるお金(通貨量)が2倍に増えます!
    - 利率も下がるので、さあみなさん、今が欲しいものを購入するチャンスですよ!」
- ⑧消費者としての[判断2]=グループで相談しながら判断する。  
I.住宅をローンで購入 II.乗り物をローンで購入 III.電化製品・家具などをローンで購入 IV.利用しない  
(※生徒の判断に「善し悪し」は無し。どうして、そう判断したのか、考えた「根拠」をしっかり持ちたい。)



(4) 全体で、みんなの判断を共有(※時間があれば全体で意見共有)

【まとめ・振り返り】

- 今日の学習のまとめ・振り返りを「振り返りシート」に各自で入力する。  
(※本時の重要語句の確認、分かったこと、考えたこと、疑問に思ったことなど)
- 次時のお知らせ…「グローバル化と日本」について  
《ちょい先の授業のための布石として…こんなことも振っておきたい→お家の人に聞いてきて!》
- ※20年前と今の宮古そばの値段を比較(20年前: 円→今: 円)  
→値段が上がっているなら、それを払えるように給料が上がって生活が楽になっているはず。(実際の感覚はどうだろうか? 生活が豊かになった実感はあるか? どうしてそう感じているのか?)
- ※実際に行っている「金融政策」では日本の通貨量は10年間で「5倍」以上になっている。  
→5倍のお金が世の中に出回っていて5倍金持ちになっている私たちの「生活感」に違和感はないか?  
→次時の「グローバル化と日本経済」への布石→時節の「財政」への布石

#### 4 板書レイアウト等

P.147~

### 「2. 日本銀行と金融政策」

めあて: 日本銀行には日本経済の中でどのような役割を担っているのだろうか。

【政府】→「金融政策」=【日本銀行】=中央銀行



【まとめ・振り返り】

※分かったこと、考えたこと、疑問に思ったこと

世の中に出回っているお金は10年前の5倍以上!

### 3. 授業の内容と仕掛けについて

9年生(中3)は学級の仲が良く、お互いに意見を言い合えるウェルビーイング(学級の支持的風土)は醸成されているため、実際の政府と日銀が行った「金融政策」について、模擬体験する「ロールプレイ形式」で学ぶ授業スタイルを実施した。学習の繋がりを意識し、前時の「景気変動」の学習を参考にして「金融政策」への判断をどのように行うのか、より実生活に近い教材を準備することで「自分ごと」として考える内容となっている。生徒の活動に関して重視した点は以下の3つで検証した。

(1) 参加しやすい課題を設定し、「自己決定の場」を設けること。

(2) ペア学習やグループ学習の時間を設け、まわりと意見交換を行いながら共同で判断する「共感的な人間関係の育成」を意識した単元デザインを構成すること。

(3) 教師は、生徒の思考をうながすファシリテーターとして働きかけを行い、生徒主体で考えさせる場面設定と根拠に基づく判断ができる授業展開となるよう「発問」「声かけ」等を行うこと。

#### 《教師の思考を促す「問いかけ例」》

今回のロールプレイでは、それぞれの考えをもとに価値判断を行うことが目的のため、考える根拠となる教科書の資料等の「見方・考え方」についてはサポートするものの、判断に関しては生徒の自主性に任じた。生徒の資料活用に関する質問に対して行った「問いかけ」として次のようなものがある。

- ① 「景気変動のグラフ」参照  
→ 「日本の経済状況の今」を予想
- ② 「日本の賃金の推移を世界基準と比較」  
→ 金融政策による通貨量の増加の目的、今後の経済への影響はどのようなものがあるか等
- ③ 世の中に流通している「通貨量が4倍」になっているが、実感は？  
→ 体感との比較(自分ごと)

★しっかりと資料を読み込むことで根拠に基づく判断ができるように仕向けること。

**◎ 検証授業(1回目)** 学ぶことが「楽しい &役に立つ授業」! 誰でも参加できる「楽しい授業」!

(9年生=中3)

**(1) 本時: 「Let's大人旅 金融政策」**

**(2) 見通しを持たせる(身に着けさせたい力)**  
・「何ができるようになるか」  
→ お金の使い方をロールプレイで実感。

**最初に説明**

【2時間目】  
前回の確認です。「景気変動」とは「好景気(好況)」と「不景気(不況)」を繰り返すこと。今の状況はどのあたりだと思う?

みんなが知っているお金の話(通貨)を2年間・今の2倍にします!金利(利率)も下げます!お金の借りやすくなります!みんなのお金にできるお金の2倍ですよ!

総理大臣からの要望を受けて「金融政策」

「発券銀行」の日本銀行が「金融政策」として通貨量を2年間で2倍にする!

**検証授業① 9年生「子どものウェルビーイング」**

**お互いの意見「なるほど!」** **【9年生の良さ】** 活発に意見を言える雰囲気「仲間意識が強い」 **自分の考え「こうかも!」**

↓

自分の考えをもとに主張 + α お互いの意見交流 & 共同で判断

**共感的な人間関係の育成** **自己決定の場の提供**

**自分の意見を言える! お互いの意見を尊重する!**  
**みんなで作る「学級の支持的風土」!!**

**◎ 授業において意識した「教師の働きかけ」の具体例**

自分ごとへの意識付け  
「自分だったら、どうするか?」「あと3年で大人の仲間入り」(キャリア教育の視点等)

「身につけさせたい力」  
「どういう流れで思考させるか」(単元デザイン・授業づくり等)

資料の見方・考え方に触れる(視点・根拠)

生徒の発言への問い返し  
「どうしてそう思ったの?」(判断基準・根拠の整合性)

**○ファシリテーターとしての教師の役割**  
→ 学級(組織)がより協力的、共通の目的を理解し、目的達成のための計画立案を支援する人

**◎ 生徒の思考を促す教師の「問いかけ」の例 (資料活用)**

【2時間目】

**資料の見方・考え方に触れる(思考・判断の根拠)**

「景気変動」で見ると今はどのあたりだと思う?

「景気」の「気」は、「景色がどう見えているかの気分のこと」。通貨量が4倍になった経済状況の中で、みんなには今の世の中の様子はどのように見えている?

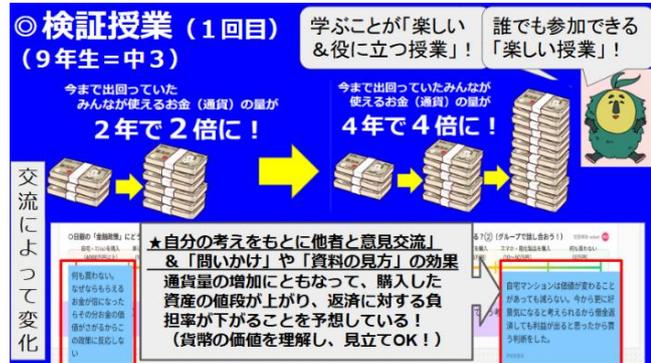
実際に、日本銀行の「金融政策」によって、世の中の通貨量は4倍になりました。

…実感はある? 「景気」の「気」は「気分」=みんなは通貨量をどう感じている?

「日本」だけで見ると変わらないけど、「世界」を基準に見てみると…

#### 4. 第1回検証授業の反省と考察（9-1の公開授業より）

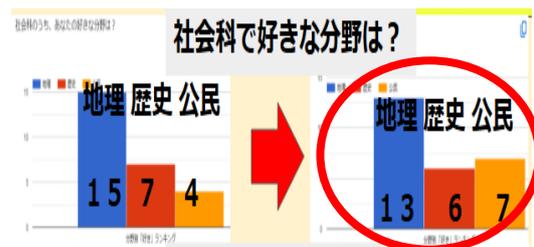
授業では、「金融政策」のロールプレイを2回行った。1回目の金融政策では自分の考えをもとに「ペアでの話し合い」によって判断したが、多くの生徒が銀行などからお金を借り入れることに消極的だった。2度目の金融政策では通貨量の劇的な変化により、経済活動に対して積極性が出てきたところが面白い反応であった。2度目にペアだけでなく、まわりのメンバーを交えてグループで意見交流を行ったり、生徒からでた借り入れに関する質問に対して「お金を貯めてから買うのか、お金を借りて買った後に返済するのか、どちらも間違っていないので自分たちで自由に判断して良い」と伝えたことも意見交流が活発になった要因だと考える。



#### 5. 検証授業前と検証授業後の9年生（中3）のアンケートから

〔グラフ1：社会科で好きな分野〕

検証授業前は、公民分野を「好き」と答えた生徒は4名だったが、検証授業後には7名に増加している。これは「自己決定の場」を設定したことで、授業に臨む態度に自主性が出てきたことがうかがえる。



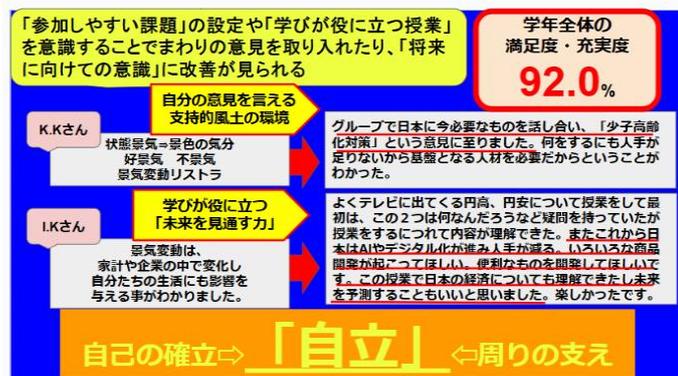
〔グラフ2：社会科は役に立つか〕

社会科が役に立つかという質問に対して「とても役に立つ」という生徒が13名に増加し、すべての生徒が役に立つとの回答になった。授業を実生活と結びつけることで「学びが自己の将来に役に立つ」と感じることがうかがえる。



#### 6. 「まとめ・振り返り」「自己評価」に関する生徒の記入内容から

みんなが「参加しやすい課題」を設定して授業に向き合わせ、「学びが役に立つ授業」を展開することで、生徒の学習に対する意識の向上が見られた。課題に対しても、まわりと協力して取り組むようになり、自己の将来に結びつけて考えをはせるなど、「主体性」が芽生えている。



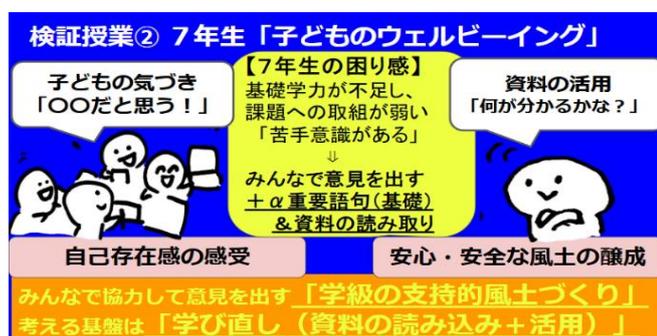
また、単元を終えての「自己評価」に関しても、学年全体での満足度・充実度が「92.0%」と高い数値を示しており、学級における「ウェルビーイングの向上」がより充実してきていることが推察される。これは授業における「協働的な学び」を推進することで、本研究のめざす学級の「ウェルビーイング（心身共に良好な状態，幸福で満足できる状態）」が高まっていることの証明であり，その結果，生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し，「主体性の醸成」に寄与していることがうかがえる。

★「自立した学習者」の育成には，自己の確立はもちろんのこと，まわりの支えも重要。

## Ⅶ 検証授業 2 回目の視点（7 年（中学 1 年生）「歴史分野」にて）

第 2 回目の検証授業では，7 年生（中学 1 年生）の歴史分野で検証を行った。

検証内容は「主体性」を高めることを目的にした学級の「ウェルビーイング」と「身につけさせたい力」を意識した単元デザイン。）アプローチの視点は，“みんなで意見を出し合う雰囲気づくり”と，学び合いの基盤となる“学び直し（資料の読み取り・活用）”です。



### 1. 生徒の実態について

7 学年は 2 クラスあり（7 年 1 組 以下 7-1，7 年 2 組 以下 7-2），1 クラスの人数は 20 名前後である。小学校からの学習に対する積み重ねに課題がある生徒が多く，授業においても，一部の学力の高い生徒の意見が通りやすい。また，学習に対して受け身な生徒が多く，クラス内でも学力に大きな差がある。7 年生の困り感として挙げられるのが“社会科に対する苦手意識”である。生徒からは「社会科は覚えるところが多くて難しい」との意見が多く聞かれ，「暗記科目」としてのイメージが強い。

### 2. 具体的な検証方法について

今回の検証授業では，まわりと共同して資料の読み取りを行ったり，話し合いを通して自己の考え（判断）を導く授業スタイルを中心に単元を構成してみた。知識のみに頼らず，お互いで協力して学習に取り組み，よりよい結論を導き出して欲しいと考えている。小学校からの学びの連続性の利点を生かす取り組みとして，6 年生における歴史分野での学びを授業の導入に活用し，既習事項による“学び直し（資料の読み取り・活用）”を取り入れてみた。小学校で学んだ「蒙古襲来絵詞」や元からの「国書」にスポットを当て，資料から内容を読み取る楽しさを味わわせることで興味・関心が高まり，生徒自ら学びに向かう「主体性」の育成が図られるかを検証する。

- (1) 資料の読み取りや発表については「協働的な学び」を重視し，みんなで資料の読み取り・活用を行い，気づいたことを自由に出し合い，自分達の考えをまとめさせる。
- (2) 毎時間のまとめは基礎知識を高めるために「重要語句」の確認を各自で行わせる。
- (3) 振り返りは毎時間行わず，単元全体で行う方法を採用する。（個人でまとめる）

### 3. 生徒の理解力を高めるアプローチ（資料活用、サポート等）として

- (1) 小学校での学び（積み重ね）を意識して「蒙古襲来絵詞」や「元からの国書」などの資料読み取りを行う。（資料活用に「AI (Gemini)」を活用して難易度を調整する）
- (2) 地図の活用としては「モンゴル帝国の領土」と「ユーラシアステップとモンゴル民族の特性」など、共通性を見いだせる思考をうながす視覚的な資料を準備する。
- (3) 活動の場面では ICT を活用し、お互いの意見を参考にできる環境を意識する。

★ねらい：みんなで意見を出し合って、知識を高めたり、協力して解決する風土  
学級の「安心・安全な風土」の醸成や個人の「自己存在感の感受」に繋げる。

### 4. 単元デザイン1（「ウェルビーイング」「身につけさせたい力」の視点から）

社会科【歴史】第2部第2章第2節「武家政権の内と外」（1/4） 授業者：宮國博弥 学級7年2組	
<b>単元のねらい</b> (ゴールの姿)	第3章の問い「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのか。」を説明するために、「ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのか」を多面的・多角的に捉えて考えたり、より深い理解を追究するなど、自ら学ぶ主体的な態度を養う。
<b>第2章 中世</b> 第2章の問い 第3章の問い 社会的役割 歴史的分野 中世 (第2部第2章)	【武家政権の成長と東アジア】 ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。 ①知識・技能 ②思考・判断・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度 武家政権の成長と東アジアの動向について、多面的・多角的に捉えて考えたり、より深い理解を追究するなど、自ら学ぶ主体的な態度を養う。
<b>単元デザイン</b> (第2節:5時間構成) 「1.海を越えて迫る元軍①」(日本の視点) 【学習課題】モンゴル帝国の拡大は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。 「1.海を越えて迫る元軍②」(元の視点) 【学習課題】モンゴル帝国の状況から対応策を考え、蒙古襲来についての理解を深める。 「2.南北朝の内乱と新たな幕府」 【学習課題】なぜ鎌倉幕府は行き詰まり、室町幕府が成立したのだろうか。 「3.東アジアの交易と倭寇」 【学習課題】室町幕府は、東アジア諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 「4.琉球とアイヌの人々がつながく交易」 【学習課題】琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。	<b>【視点3】自学自習力</b> ○自己を見つめ、考える教材の活用や宿題等 ○重要語句・調べ学習等の自学・家庭学習 ○家庭での授業の共有(家庭での会話等) ○学びの実感など
<b>目指す授業の姿</b> (指導観・子供の姿)	<b>【視点4】ICTの効果的な活用</b> ○ビデオや資料の活用 ○生徒の思考やまとめに活用
<b>【授業にのぞむワクワク感！】</b> ・面白そう・役に立つかも <b>【授業での気づき・新たな問い！】</b> ・そういうことか！ ・もっと知りたい！ <b>【繋がる知識→知恵へ！】</b> ・学びが繋がる喜び・豊かな人生 <b>【高まる自己肯定感・自己有効感！】</b> ・自分の考えや他人の考えを認める	<b>【視点1】「主体的・対話的で深い学び」</b> ○立場を変えて「自分ごと」として捉え、考える場面 ○自己と他人の考えや意見などを交流させる場面 ○「学び」を自己の将来にどう生かすか考える場面 ☆授業の検証から(ここが良かった、こちらの方が良いのでは？よく分らなかった点など) ※生徒の振り返りから参考になる視点や気づきなどをピックアップし、今後の指導計画に生かす。
<b>【知識・技能】</b> 諸資料をもとに我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代との繋がりに着目して多面的・多角的に考察し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 歴史に関わる諸事象について、主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察したり、より深い理解を目指す主体的な態度を養う。	<b>何が出来るようになるか</b> ~育成する資質・能力~ <b>【知識・技能】</b> 諸資料をもとに我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代との繋がりに着目して多面的・多角的に考察し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 歴史に関わる諸事象について、主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察したり、より深い理解を目指す主体的な態度を養う。

社会科【歴史】第2部第2章第2節「武家政権の内と外」（1/4） 授業者：宮國博弥 学級7年2組	
<b>単元のねらい</b> (指導要領より)	(1)蒙古襲来がユーラシアの動向の中で起こったことなど、武家政権の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。 (2)南北朝の争いの中で室町幕府が成立し、武家社会が次第に大きな力を持つようになっていったこと、日明貿易で銅銭が大量に持ち込まれたこと、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことなどに気づかせる。
<b>単元デザイン</b> (第2節:4時間構成) 「1.海を越えて迫る元軍」 【学習課題】モンゴル帝国の拡大は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。 「2.南北朝の内乱と新たな幕府」 【学習課題】なぜ鎌倉幕府は行き詰まり、室町幕府が成立したのだろうか。 「3.東アジアの交易と倭寇」 【学習課題】室町幕府は、東アジア諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 「4.琉球とアイヌの人々がつながく交易」 【学習課題】琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。	<b>単元名</b> 歴史 第2部 第2章「武家政権の成長と東アジア」 第2節「武家政権の内と外」(4)時間構成 <b>【単元を貫く問い(第2章)】</b> 「人々がそれぞれに結び付きを強めていった目的は何か。」 <b>【第2節の問い】</b> 「ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。」
<b>ステップ1 (1)時間目</b> 「1.海を越えて迫る元軍」 蒙古襲来は鎌倉幕府の政治にどのような影響を与えたのだろうか。 <b>*資料の読み取り(知識・理解)</b> 時代の流れを見通す・考える(ワクワク)	<b>【知識・技能】</b> 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べとめる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代、相互の関連などに着目して多面的・多角的に考察・説明したり、それを基に議論したりする力を養う。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して開きされる我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重することの大切さについての自覚を深め、国際協力の精神を養う。
<b>前節までの学びの姿・子どもの姿</b> 前節の学び(第1節「武士の世の始まり」)をもとに、武士がどのように登場し、国内で力をつけていったのかを理解している。(物事の背景や流れを考える) <b>課題を考える基礎・基本</b>	<b>【自ら学ぶ】</b> 子供たちが身に付けた力を繰り返して活用・発揮し、知識を関連付けていけるようにする。
<b>ステップ2 (1)時間目</b> 「2.南北朝の内乱と新たな幕府」 なぜ鎌倉幕府は行き詰まり、室町幕府が成立したのだろうか。 <b>*思考・判断・表現(比較・思考)</b> 時代の流れを見通す・考える(ワクワク)	<b>【知識・技能】</b> 琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 <b>*地元歴史にふれる喜び</b> (琉球王国=沖縄の歴史)
<b>ステップ3 (1)時間目</b> 「3.東アジアの交易と倭寇」 室町幕府は、東アジア諸国とどのような関係を築いたのか。 <b>*主体的な態度(協働的な学び・個別的な学び)</b> 課題の追究・働きかけ	<b>【知識・技能】</b> 琉球王国やアイヌの人々は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 <b>*主体的な態度(協働的な学び・個別的な学び)</b> 課題の追究・働きかけ

## 5. 歴史分野「海を越えて攻めてくる元軍」指導案

### ◎本時の「ウェルビーイング」の視点

【第2節「武家政権の内と外」でのねらい】

元寇を「元」の立場で学ぶことで視野や考え方を広げる→**考える視点を育て将来に繋ぐ**  
(自分や他人、お互いの意見を尊重する)

【視点1】「主体的・対話的で深い学び」

- 立場を変えて「自分ごと」として捉え、考える場面
- 自己と他人の考えや意見などを交流させる場面
- 「学び」を自己の将来にどう生かすか考える場面

R06 授業プランシート( 社会科「歴史」) 1月 21日(火) 7年 2組(男子 13名、女子 9名:合計 21 名)

単元名 第2部第2章「武家政権の成長と東アジア」第2節「武家政権の内と外」

( 1/4 ) 「1. 海を越えて迫る元軍」

授業者: 宮國 博弥(社会科教諭)

1 本時のねらい	
1. 蒙古襲来について時系列や内容など理解している。	(評価場面方法)
2. 状況や立場などを踏まえ、「自分だったらどう判断するのか?」と考え、当事者意識をもって議論している。	○歴史的事象をもとに対する自分の考えをもとに話し合いに参加し、対応や結論について判断している。
2 めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) 蒙古襲来について、時系列や内容などを理解し、どのような背景や判断が行われたのか、歴史上の人物(フビライハン、北条時宗)に寄り添い、考えている。	(めあて) 蒙古襲来は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。
← 正対 →	
(振り返り) 「学習後の振り返り」を記入させ、学習前の予想と比較させる。 (※それぞれの国の立場にたって判断し、物事を多面的・多角的に思考・判断・表現している。)	
3 本時の展開	
【導入】	
(1) 前時の確認 → (例) 鎌倉幕府の仕組み=将軍「御恩」⇄御家人「奉公」など → 後鳥羽上皇による「承久の乱」もおさえ、国内の支配体制は盤石。	
(2) 鎌倉幕府を揺るがす大事件 → 小学校の復習「蒙古襲来(元寇)」=「元」が日本に攻めてきた! 《発問》「どうして蒙古襲来(元寇)は起きてしまったのか?」 → 最後に「振り返り」で予想をもとに自分の考えを書いてもらう。 予想:「蒙古襲来の原因は〇〇だと思う」→根拠:どうしてそう思うのか?	
(3) 立てた予想を検証するための「めあて」を提示 「蒙古襲来は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。」	
【展開】	
《「蒙古襲来」は小学校でも履修済み。「事実確認」は教師中心に行い、生徒は予想等を中心に行う。》 (※今回は「鎌倉幕府」のみじゃなく、「元」の視点も交えて考えてみる。)	
(1) 事実確認: 当時の日本と中国の関係確認: 平清盛「日宋貿易」→鎌倉幕府も引き続き「日宋貿易」である。	
(2) 「元(元朝)」の視点で蒙古襲来を考える。 ① 事実確認: チングスハンが中国に侵攻→「モンゴル帝国」建国(複数の国に分裂) →フビライハンが国名を「元(元朝)」に変更 ○モンゴル帝国の範囲を提示(東アジアからヨーロッパまで)	
② 「元」の国書の読み取り: 日本への国書の内容をどう感じる? →「元」から日本への「国書」の内容を読み、文章を検討。(友好的? or 好戦的?) ☆グループで日本に対する態度(内容)を話し合い ○「元(元朝)」の現状→日本と交流している「高麗(朝鮮)」を攻撃し征服。 +同じく日本と交流のある「南宋(中国)」と「樺太(アイヌ)」で交戦中。	

判断  
①

《「元の外交」を考えるポイント》<sup>←</sup>

- ※「元」は陸路の「シルクロード」を抑えてあるが、海路は「南宋(中国)」が<sup>←</sup>いるため、利用できない。(大量に物資を移動するには海路が有効)<sup>←</sup>
- ※「元」は朝貢を行う国には自治権を与え寛容。逆らうと徹底攻撃し殲滅。<sup>←</sup>
- ※日本は交戦中の敵である「南宋(中国)」「高麗(朝鮮)」に武器となる<sup>←</sup>「刀」や火薬の原料の「硫黄」などを輸出している。<sup>←</sup>
- (「元(モンゴル)」は日本と敵対する? 懐柔して味方にする? どちらが得?)<sup>←</sup>

③ 事実確認: 「元」に服従した「高麗(朝鮮)」を経由して日本は国書を受け取るが朝廷も幕府も無視→合計6回送るもまともな返事無し。<sup>←</sup>

《「鎌倉幕府」の対応を考えるポイント》<sup>←</sup>

- ※国書の内容を南宋からきた僧に訳してもらったところ、「日本の王を<sup>←</sup>」文字下げて書くなど日本を下に見ている」「文末には言うことを聞<sup>←</sup>かないと軍隊を出して攻めると書かれていると説明されたため、<sup>←</sup>朝廷も幕府も対応を決められずに先送りし、返事をしなかった。<sup>←</sup>
- ※鎌倉幕府執権は当時18歳の「北条時宗」=生徒と同年代である。<sup>←</sup>

④ 事実確認: 返事が来なかったことで怒ったフビライハン(元)は征服した「高麗(朝鮮)」も交えて軍を編成し、<sup>←</sup>合わせて約2万5千人で日本の北九州に侵攻=1273年10月「文永の役」→元軍は太宰府への上陸を試みたが日本軍は「水城(「白村江の戦い」で反撃を恐れた天智天皇(中大兄皇子)が造営した石垣)」を利用した九州の御家人達の抵抗にあい苦戦。冬を前に撤退<sup>←</sup>した。<sup>←</sup>

⑤ 事実確認: 「南宋(中国)」が「元」に征服され、海路を手に入れる→日本は友好国がなくなる。<sup>←</sup>

⑥ 「元」の対応: 高麗(朝鮮)、南宋(中国)を征服したあと、日本への対応をどうするか?<sup>←</sup>  
 《元の視点から考えてみる》<sup>←</sup>  
 【判断1】攻める! → どうしてそう思ったのか? 【判断2】仲良くする! → どうしてそう思ったのか?<sup>←</sup>

⑦ 事実確認: フビライハン(元)は、再び「元」から日本へ降伏を促す「国書」を送るが、執権「北条時宗」は使者<sup>←</sup>を処刑し、再度、無視(元への返答なし)。<sup>←</sup>

⑧ 事実確認: 服従しない日本に対して元は朝鮮半島から「東路軍(元高麗)」4万、「江南軍(元南宋)」10万の14万人の軍勢で日本に侵攻=1281年6月「弘安の役」→九州で上陸を試みるも6万5千人の日本側は「防塁」を使って撃退。元軍は上陸できず。暴風雨に遭い被害拡大し撤退。(元軍の生き残り3千人足らず)<sup>←</sup>

⑨ 事実確認: 教科書より「3度目の日本侵攻を計画するもフビライハン(元)の死により中止。」<sup>←</sup>  
 北条時宗も31歳で死去。<sup>←</sup>

《幕府の対応から考えを深める》<sup>←</sup>

⑩ 事実確認: 教科書より「元寇は防衛戦であったため、十分な領地を与えられず、御家人は困窮。<sup>←</sup>」「徳政令」を出すも効果なし。<sup>←</sup>  
 → 鎌倉幕府の求心力が低下。(次時に繋げる説明)<sup>←</sup>

☆時間に余裕があれば・・・<sup>←</sup>

《+1の考える資料》<sup>←</sup>

- 教科書にある「蒙古襲来絵詞」をスライドさせながら順を追って見せる<sup>←</sup>  
 → 実際は日本が押しに押ししていた?<sup>←</sup>
- 蒙古襲来あとの北条氏の領土拡大→奉公に対する恩賞は本当に出せなかったのか?<sup>←</sup>

【まとめ・振り返り】<sup>←</sup>

《時代の流れ》<sup>←</sup>

- ① 元からの国書を日本が無視<sup>←</sup>
- ② 元による日本侵攻: 1274年「文永の役」、1281年「弘安の役」(蒙古襲来=元寇)<sup>←</sup>  
 ※小学校で習う→元の「集団攻撃」「てつはう」「毒矢」などに日本は苦戦! → 防塁で上陸を阻む。<sup>←</sup>
- ③ 御家人の活躍により元を撃退したが褒美がもらえず不満を持った。<sup>←</sup>

○今日の学習のまとめ・振り返りを「振り返りシート」に各自で入力する。(「振り返り」で何を考えたかを評価する)<sup>←</sup>  
 (※本時の重要語句の確認、分かったこと、考えたこと、疑問に思ったことなど)<sup>←</sup>

○次時のお知らせ・・・「2. 南北朝の内乱と新たな幕府」についての告知<sup>←</sup>



判断  
2

判断  
3

何が問題?

4 板書レイアウト等

P.70~(中学校の歴史「帝国書院」)

「1.海を越えて迫る元軍」《めあて》蒙古襲来は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。

【鎌倉幕府】

将軍 ← 執権 ← 御家人  
御恩 ← 奉公  
領地 ← いざ鎌倉 ← 守護・地頭

○チンギスハン「モンゴル帝国」  
→フビライハンが国名を「元」へ  
○元が日本に国書→日本は無視→「蒙古襲来(元寇)」  
☆1274年「文永の役」 1281年「弘安の役」  
→「防塁」等で撃退するも恩賞無し→徳政令(求心力低下)

《まとめ》  
元寇を退けたが御家人に恩賞を与えられず幕府の権力は低下した  
《振り返り》わかったこと、気づいたこと、疑問に思ったことなど  
最初に立てた予想を元に自分の考えを書く

7 授業の振り返り

- ・導入部分では、小学校との繋がりを意識して小6の教科書を見せ、「蒙古襲来(元寇)」の授業に入っていく予定だったが、生徒達が覚えておらず、反応が悪かったのでうまく流れを作ることが出来なかった。
- ・資料活用として「元からの国書」の読み込みをしてもらったが、あまり内容が分からないということで、授業中も繰り返し説明をしてしまい、予定していた授業の半分も進めることが出来なかった。
- 【授業後の研究会の話し合いにおいて①】
  - ・説明が繰り返しになったので前半の部分はさっと流し、生徒達の活動が活発になった「自分たちの考えを figjam に書き込む」ところからスタートでも良かったのではないかと。(資料がたくさんあるので、それを活用させる)
  - ・授業を「3コマ漫画」のように場面設定をして、展開を考えた方が良い。文章で指導案を考えると、どうしても型にはまり、柔軟性がなくなったりするため。(こどもの理解が最優先=教えたいことをシンプルにしていく大切さ)

8 これからの授業デザインに向けて

- 【授業後の研究会の話し合いにおいて②】
  - ・Google の AI「jemiini」を活用して現代語訳を訳す発想がなかったので、新たな気づきがあった。
  - ・外国(元)からの視点での授業づくりは面白いと思った。(ユーラシア大陸からの影響を考える視点)
  - ・今回の節は外国(ユーラシア大陸)からの影響で単元を考えてみてほしいかも。

6. 第2回検証授業の反省と考察(7-2の公開授業より)

《結論から言うと…》

2回目検証授業を実施した7-2では予定していた活動の半分もいかなかった→失敗  
《授業について》

授業では小学校の学びを生かすため、「蒙古襲来絵詞」「国書」を参考にし、導入で「元寇」についての内容を復習し、その後の展開に繋げていく流れを考えていたが、生徒が小学校での学びが曖昧で反応が悪く戸惑ってしまった。

そのため内容の確認に時間がかかってしまい、元の立場から国書を考察する活動に移行できなかった。

◎ **検証授業(2回目)** 学ぶことが「楽しい & 役に立つ授業」! 誰でも参加できる「楽しい授業」!

(7年生=中1)

(1) **ウェルビーイング=学ぶ楽しさ!**

(2) **身に着けさせたい力=基礎学力&資料活用**

小学校での学び(積み重ね) AI(Gemini)で訳し簡単に!

☆今回のしかけ  
●資料の読み取り&活用  
「蒙古襲来絵詞」  
「元からの国書」  
「地図」の活用など

安心・安全な風土の醸成  
自己存在感の感受

《うまくいかなかった要因》

(1) 生徒の「見取り」が不十分だった。

①生徒がこれまでの学習（小学校での学び）から、元寇に対して、どの程度の知識・理解がなされているのか、実態の把握が十分にできていなかった。

→そのため、学級の実態と指導案作成の視点が合わないミスマッチが起きた。

②教科書にある元からの「国書」の日本語訳をAI（Gemini）で、さらに現代語訳に訳したことで難易度が下がり、生徒も簡単に内容を読み取れると思ってしまった。（※「教科書の訳」が主な資料として出題される高校入試を見据えて、あまり優しく訳しすぎるのも問題ありだと考えてしまい、難易度のバランスをとったつもりだったが、本校の生徒の実情を考えると実際にはもっと簡単に訳す必要があった。）

(2) 小学校でも教科書に記載されており、内容はすでに履修済みだと過信していた。

中学校での学習内容が小学校での内容と重なる部分も多く、導入がもっとスムーズにいくと思い、授業を応用的な内容で構成していたが、実際には小学校で学んだ内容を忘れていた生徒も多く、資料の読み取りがうまくいかなかった。（そのため、教科書の内容を改めて確認する必要が生まれ、予定時間をオーバーしてしまった。）  
→導入での「蒙古襲来絵図」の読み取りに時間がかかってしまい、活動のメインである「国書」の読み取りから自分たちの意見を交流させる活動に移行するには、無理が生じ、十分な時間確保をすることができなかった。

(3) タイムマネジメントの失敗（本時のメインである思考をうながす場面を焦りすぎた）

授業の展開の部分で設定した「話し合いの場」の時間確保を意識するあまり、話し合いの核となる知識「学び直し＝生徒の内容理解の重要性」を軽視してしまった。（※そのため、7-2 では次時において、内容の説明を加えて再度授業を行い、1時間予定の授業が2時間かかってしまった。）

## 7. 第2回検証授業（7-2の公開授業）の反省をもとに授業を再構成

7年生（中1）は2クラスあるため、前回の検証授業の反省点を生かし、資料をより分かりやすいように工夫したり、考えるもととなる“学び直し（資料の読み込み・活用）”をていねいに行うなどの修正を行い、再度、別のクラス（7-1）でも検証授業を行った。

《結果》

今回は前回と同じ流れの指導案で授業を実施した。7-1では、導入の資料の読み込みを、ていねいに時間をかけて行ったことで生徒の理解が深まり、話し合いの時間もスムーズに進んだ。（7-1では2時間かかった内容が7-1では同じ内容の授業で1時間に収まった。）

《2回目がうまくいった要因》

(1) 最初の「蒙古襲来絵図」の読み取りに時間をかけ、クラス全員でていねいに行った。

（集団攻撃、てつはう、人種、先駆けなど、何度か時間を設けたことが功を奏した）

- (2) 生徒から出た意見をみんなで共有し、「問い返し」を行うなど、ひとつひとつの確認を生徒たちのペースで確認した。
- (3) 元からの「国書（原本）」を提示し、漢字から読み取れる内容を自由に発言させたり、ペアやグループで確認するなど、「みんなで取り組ませる場面」を多く設定した。
- (4) 生徒の実態に応じて資料の難易度を設定した。 (AI (Gemini) を利用し、前回より、さらに簡単な訳に修正したことで、生徒が読み取りやすくなり、理解度も深まった。)



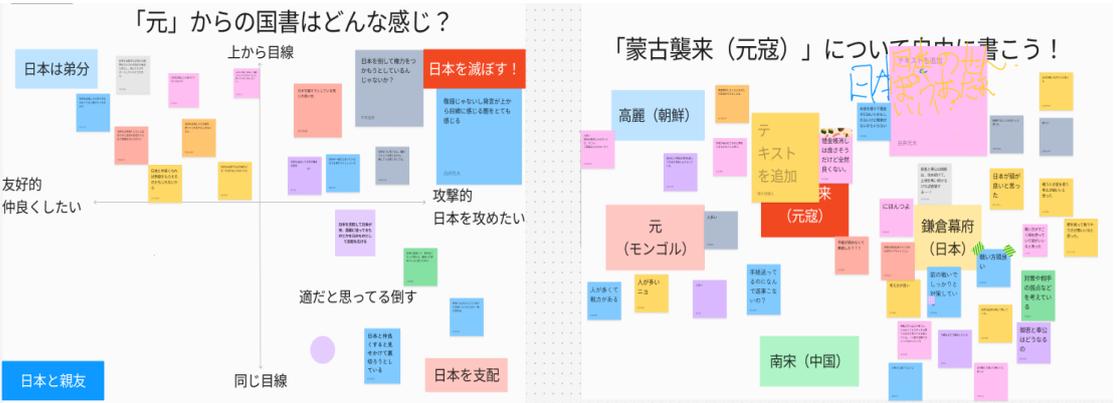
「元(元朝)」からの日本に送られた国書を委員会から解放された Google の AI 「Gemini」で現代語訳に変換した文章をさらに小学生向けに変換してもらった。

上天眷命  
大蒙古國皇帝奉書  
日本國王朕惟自古小國之君  
境土相接尚務講信修睦況我  
祖宗受天明命奄有區夏遐方異  
域畏威懷德者不可勝數朕即位  
之初以高麗無辜之民久瘁  
鋒鏑即命罷兵還其疆域反其  
旆倪高麗君臣感戴來朝義雖  
君臣而歡若父子計  
王之君臣亦已知之高麗朕之  
東藩也日本密運高麗開國以來  
亦時通中國至於朕躬而無一  
乘之使以通和好尚恐  
王國知之未審故特遣使持書  
布告朕意冀自今以往通問結  
好以相親睦且聖人以四海為  
家不稍遠好一家之理故至  
用兵失執所好  
王其圖之不逞  
至元三年 八月 日

「天命を受けた  
大蒙古國の皇帝からの書状です。  
日本の王様へ  
私が思うに、昔々から、お隣さん同士は仲良くするのが  
大切です。  
私たちの国は、神様から選ばれて大きな国を治めています。  
遠く離れた国々も、私たちの国の強さと優しさに気づ  
いています。  
私が国の王様になったときから、高麗という国の人々を大  
切にしてきました。高麗の人たちは、私たちにとても感謝  
しています。日本も昔からお隣の中国と仲良くしていて、  
高麗とも近い国です。なのに、私たちが仲良くしようと  
してくれませんが、もしかしら、私たちの国のことをよく知  
らないのかもしれない。そこで、この手紙で私たちの気  
持を伝えたいと思います。これから、お互い使者をやり  
取りして、仲良くなれたら嬉しいです。賢い人がいました。  
『世界中の人々はみんな家族のようなもの』と。お  
互いに仲良くしないのは、家族なのにケンカをしているよ  
うなものです。けんかをするのは誰も嫌いことではありません。  
日本もよく考えて、私たちと仲良くしてもらいた  
いと思います。』  
至元三年八月日 (『元史』「外夷伝日本伝」より。)

### 8. 第2回検証授業 (7-2 の公開授業, 7-1 の再検証授業) から

7-2 では、次の時間で、再度、資料の読み込みを行ったことでお互いの意見交換が活発になり、みんなで「元寇」についてまとめる場面では、その影響や立場の違いから、それぞれの意見のねらいや関連性を繋げてまとめる生徒が出てくるなど、俯瞰的に判断する生徒も出てきたことが面白い反応だった。(多面的・多角的な視点の芽生え)



7-1 では、同様の内容を1時間で行ったが、導入の場面で資料の読み取りをしっかりと行ったことで、話し合いもスムーズになり、国書に対する判断やまとめにおいて多様な意見がでた。「ウェルビーイング」の視点からもお互いの考えを尊重して話し合うことはとても意義があると感じた。(授業づくりで丁寧に生徒の実態を「見取る」重要性への気づき)



## 9. 第2回検証授業を終えて「授業づくりに関して改めて意識したこと」

### (1) 考える根拠となる「知識・理解」をしっかりと生徒に落とし込む必要がある。

《資料読み取りの重要性》

思考させる前に根拠となる資料の読み取りや説明等をしっかりと行い、「何について考えるのか」「どのように判断するのか」などの視点を明確にする必要がある。

### (2) 教師側が「何を目的に活動させるのか」を明確化することで、どのような授業形態が良いかをイメージできる（生徒主体 or 教師との対話など）

教師は活動の方法が優先ではなく、生徒に「何を身につけさせたいのか」をしっかりと吟味し、授業づくりに取り組む必要がある。（生徒に活動を丸投げするのではなく、「何を目的に」、「どのような手順で授業展開するのか」をしっかりとイメージして課題を設定すること、活動の仕方を決めることが授業づくりでは大事。）

### (3) 教師側が「生徒の理解を深めるために、どうアプローチするのか」の明確なビジョンを持つことで授業の展開もスムーズになる。

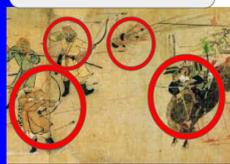
生徒が何のために話し合うのか、その目的を理解しないまま活動に入ってしまうと、何について学ぶのかの方向性が見えず、ただ意見を発表しているだけで、「新しい気づき」や「新たな視点」が生まれず、学びが深まっていかない。（※例え、見た目的に活発な話し合いが行われていても、「目的」や「内容」が伴っておらず、「深い学び」につながるとは限らない）

#### ◎授業づくりに関して改めて意識したこと（2回目）

☆大事にしたいこと＝「資料の読み取り」→**生徒主体 or 教師との対話**  
 ○生徒が主体「自学学習・個別最適な学習」  
 ○教師も一緒「見方考え方・協働的な学び」

**何を目的に活動させるのか**

資料の見方・考え方（根拠）はいいに



例①資料の読み取り  
「誰が？（人物）」「何を？（物）」  
「どうした？（行動・出来事）」など

例②資料からの予想・推察  
「何のために？（目的）」「どうしてそうなったのか？（地図・地政学）」など

## 10. 第2回検証授業の生徒の「まとめ・振り返り」「自己評価」から

「第2回検証授業」の生徒による「まとめ・振り返り」「自己評価」からの考察である。

7年生の検証授業では、授業における活動を重視している。そのため、毎時間の「まとめ・振り返り」は行わず、代わりに「今日の学習に対する自己評価」として、授業で扱った「重要語句」のチェックを共同（ペア・またはグループ）で行わせた。その上で「A. 重要語句も大丈夫！」「B. 授業内容はOK！」「C. 授業がよく分からない」の3項目の中から自己評価を選択してもらい、単元の最後に全体としての「まとめ・振り返り」を行う形式をとっている。これは、社会科に対する「暗記科目」というイメージによって苦手意識を持っている7年生（中1）に対して、

#### ◎生徒の「まとめ・振り返り」から

授業の終わりに、自分で「重要語句」を確認させ、「自己評価」を行う。  
 自主学习（知識・理解）→**単元テスト**

**小学校からの学びの積み重ね**  
 7年生（中1）では、毎時間の「まとめ・振り返り」ではなく、単元全体での「まとめ・振り返り」を行う。

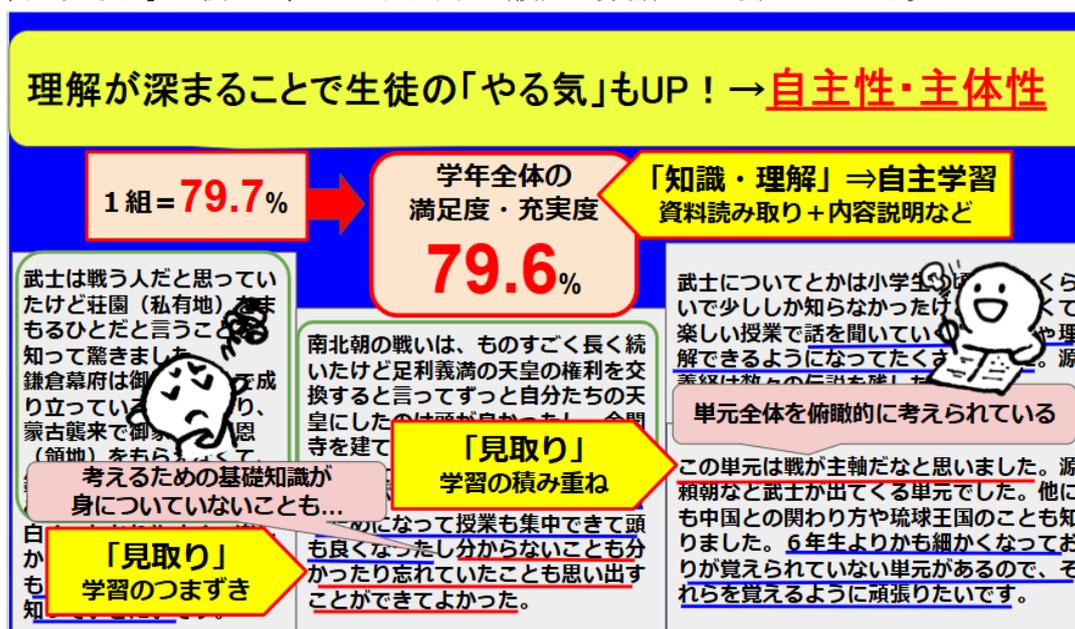
評価項目	自己評価	人数	割合
A【重要語句も大丈夫！】	【重要語句】後醍醐天皇・足利尊氏・建武の新政・南北朝時代・守護大名・	18	65%
	【重要語句】倭寇・明・日明貿易（勘合貿易）・朝鮮	421	100%
	【重要語句】夫】	9	60%
B【授業内容はOK!】	【重要語句】後醍醐天皇・足利尊氏・建武の新政・南北朝時代・守護大名・	161	60%
	【重要語句】後醍醐天皇・足利尊氏・建武の新政・南北朝時代・守護大名・	150	60%
C【授業がよく分からない】	【重要語句】後醍醐天皇・足利尊氏・建武の新政・南北朝時代・守護大名・	76	70%

学ぶ楽しさを活動の中心に行うこと社会科の楽しさを味わわせること、共同で作業をさせることで負担感を減らす目的と学びが積み重なっていく充実感を味わわせることを意識した「ウェルビーイング」の視点からのアプローチである。その成果として自己評価からも積極的に授業に臨んでくれている生徒が増え、すべての生徒が（基準：今回のB評価として設定してある自主的に学習に取り組んでいる）「A. 重要語句も大丈夫!」「B. 授業内容はOK!」という項目を選んでいる。また、毎時間の「まとめ」として、重要語句を自分たちでチェックさせたことも、知識・理解への意識が向上し、「単元テスト」への動機付けにも繋がっていることが単元の「まとめ・振り返り」からもうかがえる。

## 11. 生徒の「まとめ・振り返り」「自己評価」からのピックアップ

生徒の振り返りからのピックアップである。それまでの「楽しかった」「分かった」などの抽象的な振り返りだった内容が、具体的な学習内容を交えて記入するようになったり、復習を意識した記入が目立つようになるなど、学習に対する意識の向上が見られるようになった点は大きな成果だといえる。

また、今回の検証授業でしっかりと資料の読み込みを行わせたことで、その後の活動に深まりが生まれ、単元全体を俯瞰的に捉えて「まとめ」を行う生徒が出てきた点も大きな進歩だといえる。単元の最後に行った「自己評価」においても、学年としての満足度・充実度も79.6%と高い数値を示しており、学力向上の面からも期待が持てる結果となった。これは、教師が生徒の実態をしっかりと把握して「ウェルビーイング」を意識した授業づくりを行うことで、①内容の理解が進む ②自己評価が高まる ③学習意欲が向上(自主学習の意欲も向上) することにつながるデータとして、今後も引き続き検証していきたいと思っている。ただ、生徒の中には、「分からなかったことも分かったし、忘れていたことも思い出すことができて良かった」という一見、成果を上げているようにみえる振り返りを行っているものの、小中を通しての学びの中で、もしかしたら分からないまま言い出せずに進級してきた「学習のつまづき」があったのかもしれない内容の記述も見られ、「生徒の見取り」に関して、さらなる研究（検証・分析）が必要だといえる。



### 《今後も継続して研究していきたい「生徒の見取り方」》

- (1) 小学校の学びが生かされているか？（小中高と繋がる「学びの連続性」）
- (2) 「まとめ・振り返り」をどう今後の学習に生かすか？（理解度や習熟度をどう見取るか「視点」「考え方」など）

### 《これからも大事にしていきたい生徒の姿》

- 生徒が授業に参加している・楽しんでいる「ウェルビーイング（支持的風土づくり）」  
→社会科を学ぶ喜び（役に立つ・学びの積み重ねなど）  
⇒★理解が深まることで生徒の「やる気」のUP！→「自主性」「主体性」の育成へ！

## VIII 検証授業3回目の単元デザインと指導案（※入院のため実施できず）

### 1. 生徒の実態について

8学年は1クラスであるが、クラスの人数としては29名と比較的多い。男女の仲が良く、活発な生徒も多いため、質問等に対する反応はとても良いが、全体的に学習に対する積み重ねがまだまだ未熟で基礎的・基本的な知識に課題がある。男女の仲の良さを生かし、話し合い活動などを積極的に授業に盛り込むことで、学ぶ楽しさを味わわせ、生徒の学びに向かう「主体性」を導き出していきたい。

### 2. 授業づくりに関して

研究のテーマである学びを支える基盤となる「ウェルビーイング」の構築と学習に向かう態度を育成する「主体性」をいかに意識した「単元デザイン」「授業づくり」が出来るかが今回の検証授業の趣旨である。その際、意識したことは以下の点である。

- (1) 単元を通して授業を計画し、歴史の大まかな流れを理解することで「先を見通す力」を育てたい。
- (2) 歴史を学ぶ際、まわりの国々との関係をもとに考える「地政学」的な視点を取り入れることで、外交関係など、実生活で生かせる「見方・考え方」を育てたい。
- (3) さまざまな情報の中から取捨選択して必要な情報を集め、よりよい判断をしていく態度を育てたい。
- (4) 自分ごととして捉えやすいように、歴史上の人物の立場に立って考えたり、自分たちの地域の歴史（沖縄県・宮古島関連）にも触れながら学ぶ機会としたい。

### 3. 研究テーマとの関連

- (1) 単元を見通した指導計画を作成する。（系統立てて単元計画を作成すること、基礎的・基本的事項を理解させ、学びを深める単元づくりに取り組む。）  
（※小中高の「学びの連続性（系統性）」を意識した授業づくりや既習事項の活用等）
- (2) 自分ごととして捉えやすいよう、子供の実態に応じた具体的な事例（問い・教材・教具）を交えた授業構成とする。（根拠に基づく思考の場面を設定し、自らの考えをもとに他者と交流させることで、社会的視野を広げ、よりよい解決を目指す。）
- (3) 子供の「見取りみ」を意識し、評価の適正化を図る。（指導と評価の一体化）
- (4) 学びを充実させるため、学級における支持的風土を生かしたウェルビーイングの

**推進・研究に取り組む。**（生徒同士、生徒と教師、教師間、地域との協力関係の構築など、生徒の主体性を育むためのウェルビーイングの研究・推進）

## 4. 単元デザイン（「ウェルビーイング」の視点と「主体性（自分ごと）」の視点）

**社会科【歴史】第2部第5章第4節「近代国家の歩み」（1/4）」授業者：宮國博弥 学級8年1組**

**単元のねらい（ゴールの姿）** 第3章の問い「近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。」  
第4節の問い「日本の近代国家建設は、どのような成果と課題を生んだのだろうか。」

<p><b>第5章 第4節</b> 「近代国家の歩みと国際社会」 第4節 「近代国家の歩み」 ①新たな外交と国境の画定</p> <p><b>第2章の問い</b> 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。</p> <p><b>第4節の問い</b> 日本の「近代国家」の建設は、どのようになされたのだろうか。</p> <p>①知識・技能 新政府が自由民権論の導入や国境の画定などの新たな外交を進め、やがて自由民権論の広がりを背景に大日本帝国憲法が制定されたことを理解するとともに、清議から歴史に繋がるさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。</p> <p>②思考・判断・表現力等 大日本帝国憲法と帝国議会の成立過程に着目して、外国との関係や国内の政治とのつながりを考察し、事業を相互に関連付けるなどして、近代国家の建設を主体的に追求しようとしている。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 議会の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで求められる課題を主体的に追求しようとしている。</p> <p>【中学校社会科歴史分野で目指している資質・能力】 単なる知識の詰め込みではなく、過去の出来事を多角的な視点から捉え、分析し、歴史的な思考力を養い、現代社会とのつながりを考え、将来に向けてどのように活かしていくかを考察する力、現代社会を生きる上で必要な力を育むことを目指す。</p> <p>1. 時代を大観する：各時代の特色を捉える。時代間の繋がりを考える。 2. 歴史的事象を多面的・多角的に考察する：多様な資料を活用する。異なる立場から解釈を比較する。 3. 歴史認識を深める：歴史認識の多様性、歴史認識の形成過程。 4. 歴史学習を通して、現代社会への理解を深める：歴史から学ぶ。歴史認識の重要性。 5. 主体的な学び：課題解決型の学習。グループ学習。 【身につける資質・能力】 ・身近な地域の歴史との関連：地域の歴史を調べる活動を通して、歴史に対する興味関心を高める。 ・世界史との関連：世界史の大きな流れを理解し、日本史との関連性を考える。 ・情報活用能力の育成：様々な情報源から必要な情報を収集し、分析する能力を養う。</p>	<p><b>【知識・技能】</b> 諸資料をもとに我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代との繋がりを着目して多面的・多角的に考察し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 歴史に関わる諸事象について、主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察したり、より深い理解を目指す主体的な態度を養う。</p>
---	---

**○単元デザイン（第4節：4時間構成）**  
**【帝国書院における単元と学習課題】**  
「1. 新たな外交と国境の画定」  
【学習課題】新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。  
「2. 沖縄・北海道と「近代化」の波」  
【学習課題】新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのだろうか。  
「3. 自由と民権を求めて」  
【学習課題】新政府の政策を批判していた人々は、どのような活動を行ったのだろうか。  
「4. 帝国憲法の成果と課題」  
【学習課題】大日本帝国憲法はどのような特色があり、その下でどのような国の仕組みが作られたのだろうか。

**【視点3】自学自習力**  
○自己を見つめ、考える教材の活用や宿題等  
○重要語句・調べ学習等の自学・家庭学習  
○家庭での授業の共有（家庭での会話等）  
○学びの実感など

**【視点4】ICTの効果的な活用**  
○ビデオや資料の活用  
○生徒の思考やまとめに活用

**何が出来るようになるか～育成する資質・能力～**  
**【知識・技能】**  
諸資料をもとに我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解する。  
**【思考・判断・表現】**  
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代との繋がりを着目して多面的・多角的に考察し、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それを基に議論したりする力を養う。  
**【主体的に学習に取り組む態度】**  
歴史に関わる諸事象について、主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察したり、より深い理解を目指す主体的な態度を養う。

**○終末（まとめ・振り返り）**  
生徒の感情：なるほど！確かに！ためになる！  
・A評価：学びを今後に生かしたい（役に立つ）  
・B評価：学ぶ楽しさを感じている（分かる喜び）  
・C評価：興味・関心が無い。楽しさを感じない。  
振り返り（生徒が自分の気づきや考えを記入）

**☆授業の検証から（ここが良かった。この方が良いのでは？よく分からなかった点など）**  
※生徒の振り返りから参考になる視点や気づきなどをピックアップし、今後の指導計画に生かす。

**社会科【歴史】第2部第5章第4節「近代国家の歩み」（1/4）」授業者：宮國博弥 学級8年1組**

**単元のねらい（指導要領より）** (1) 欧米諸国とのかかわりや社会の近代化など、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。  
(2) 複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせるようにすること。

**○単元デザイン（第4節：4時間構成）**  
**【帝国書院における単元と学習課題】**  
「1. 新たな外交と国境の画定」  
【学習課題】新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。  
「2. 沖縄・北海道と「近代化」の波」  
【学習課題】新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのだろうか。  
「3. 自由と民権を求めて」  
【学習課題】新政府の政策を批判していた人々は、どのような活動を行ったのだろうか。  
「4. 帝国憲法の成果と課題」  
【学習課題】大日本帝国憲法はどのような特色があり、その下でどのような国の仕組みが作られたのだろうか。

**【知識・技能】**  
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる。  
**【思考・判断・表現】**  
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代、相互の関連などに着目して多面的・多角的に考察・説明したり、それを基に議論したりする力を養う。  
**【主体的に学習に取り組む態度】**  
歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察や深い理解を養う。で高まる自己肯定感・自己有用感、国民としての自覚、国家及び社会並に文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重することの大切さについての自覚を高め、国際協調の精神を養う。

**【自ら学ぶ主体性】**  
子供たちが身に付けた力を繰り返し活用・発揮し、知識を関連付けていけるようにする。

**【節の問いの振り返り】**  
なぜ明治政府は、国境を画定し、憲法を作ったのか、欧米の近代国家の建設の過程も踏まえて説明してみよう。（帝国書院より）

**ステップ1 (1) 時間目**  
「1. 新たな外交と国境の策定」  
新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。  
資料の読み取り（知識・理解）  
時代の流れを見通す・考える  
生徒の学びに向かう姿  
近代国家建設を目指した明治政府の成果（国家戦略・政策等）と対応すべき課題（国内外）について理解し、追求しようとしている。（物事の背景や流れを考える）  
課題を考える 基礎・基本 → 知識理解 思考・判断

**ステップ2 (1) 時間目**  
「2. 沖縄・北海道と「近代化」の波」  
新政府は沖縄や北海道に対して、どのような政策を進めていったのだろうか。  
思考・判断・表現（比較・思考）  
時代の流れを見通す・考える

**ステップ3 (1) 時間目**  
「3. 自由と民権を求めて」  
新政府の政策を批判していた人々はどういう活動を行ったのだろうか。  
主体的な態度（協働的な学び）  
課題の追究・働きかけ

**ステップ4 (1) 時間目**  
「4. 帝国憲法の成果と課題」  
大日本帝国憲法はどのような特色があり、その下でどのような国の仕組みが作られたのだろうか。  
主体的な態度（協働的な学び）  
地域教材とまとめ・振り返り

**単元デザイン（共通点）**  
～政府から見た視点～  
「知らないことを知る楽しさ、まだ解決できていない未知の事象の探求「学び方」や考察を通して、歴史を探究する楽しさ・面白さ」

琉球・宮古関連：琉球藩→沖縄県  
琉球・宮古関連：台湾出兵&人頭税  
国外組・国内組の視点の違い  
国体・内閣制度  
反政府への対応  
外交と国防 琉球&アイヌ

## 5. 歴史分野「第4節 1. 新たな外交と国境策定」指導案（8年生）

(1) 小中の「学びの連続性」の視点からの単元づくりについて

現在勤務している伊良部島中学校は小中一貫校のため、小学校から系統立てて学習計画を進めることができることが1番の良さだと感じている。8年生(中2)の検証授業「歴史分野」では、明治政府の対外・国内政策と憲法や内閣制度などの国内体制の構築に向けた「近代国家の歩み」の単元となっている。小学6年ですでに歴史上の人物や日本側で起こった出来事、その後の状況など、大まかに内容について学んでいるため、「学びの連続性」を生かし、明治政府の要人としての立場に立って「自分ごと」として考え、判断する内容で単元デザインを行い、各授業を構成してみた。

### 【単元デザインと学習課題】

【岩倉使節団】…外国を視察してきたメンバー



《左から》  
木戸孝允、山口尚芳、  
岩倉具視、伊藤博文、  
大久保利通

### 【小学校教科書の人物】

《視察団》 《国内組》



日本の国力を見せつけるつもりだった岩倉使節団の失敗談や成果を知ると面白いよ。

知らないことを知る楽しみ、まだ解決できていない未知の事象の探求  
「学び方や考察を通して、歴史を探究する楽しさ・面白さ」  
check

校種の段階を意識すること!

段階	目標	内容	学び方
小学校	歴史への興味・関心を育む	身近な地域の歴史、生活、人物	体験学習、見学、冒遊び
中学校	年代、出来事、歴史の流れを理解する	日本史の通史	教科書、資料集、年表
高校	歴史的事象を多角的に考察し、解釈する	世界史、日本史、近現代史、文化史	論文、レポート、討論

単元デザイン(共通点)  
～政府から見た視点～

《視察団》⇒政府の中心に!  
視察し欧米との国力差痛感  
中央集権推進→「富国強兵」

《国内組》⇒政府から下野も  
倒幕仲間:士族の不満・困窮  
「征韓論」→「西南戦争」「民権運動」

国外組・国内組  
の視点の違い

《琉球・宮古関連》  
琉球王国(薩摩の琉球侵攻)  
明治政府⇒琉球藩⇒沖縄県

外交と国防  
琉球&アイヌ

反政府への対応

《琉球・宮古関連》  
台湾出兵(=台湾事件)  
&人頭税(=琉球・薩摩)  
(=帝国議会)

国体・内閣制度

### ○単元デザイン(第4節:4時間構成)

#### 【帝国書院における単元と学習課題】

#### 「1. 新たな外交と国境の画定」

【学習課題】新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。

#### 「2. 沖縄・北海道と「近代化」の波」

【学習課題】新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのだろうか。

#### 「3. 自由と民権を求めて」

【学習課題】新政府の政策を批判していた人々は、どのような活動を行ったのだろうか。

#### 「4. 帝国憲法の成果と課題」

【学習課題】大日本帝国憲法はどのような特色があり、その下でどのような国の仕組みが作られたのだろうか。

### ○単元デザイン(第4節:4時間構成)【単元デザインの際に意識して起きたい視点:海外視察団と国内組】

- ・海外視察団(岩倉視察団)＝「富国強兵・近代(欧米)化」…列強に植民地化される前に中央集権化を!
- ・国内残留組(治安維持側)＝「征韓論・自由民権運動」…士族の不満、言論の自由への渴望など

◎本時の「ウェルビーイング」の視点:第4章「近代国家の歩みと国際社会」第4節「近代国家の歩み」

【「1.新たな外交と国境画定」でのねらい】

○明治政府が結んだ条約を見比べ、当時の国際情勢について理解を深める→**考える視点やお互いの意見を尊重する態度を育て将来に役立てる**

【視点1】「主体的・対話的で深い学び」

- 「自分ごと」として捉え、歴史的な事象を考える場面
- 自己と他人の考えや意見などを交流させる場面
- 「学び」を自己の将来にどう生かすか考える場面

R06 授業プランシート( 社会科「歴史」) 2月 日( ) 8年 1組(男子 名、女子 名:合計 名)

単元名 第2部第4章「近代国家の歩みと国際社会」第4節「近代国家の歩み」

( 1/4 ) 「1.新たな外交と国境の画定」

授業者: 宮國 博弥(社会科教諭)

1 本時のねらい	
1. 新政府が岩倉使節団を派遣した目的やその成果を理解し、その後の外交政策や産業の発展に与えた影響について考えることができる。 2. 新政府が国境を画定した経由とその課題について、主体的に追求できる。	(評価場面方法) ○歴史的な事象について理解し、自分ごととして考え、その考えをもとにみんなで話し合いに参加し、対応や結論について、自分だったらどうしたかを思考・判断している。
2 めあて、まとめ、振り返り	
(めあて) 新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。	(まとめ) 新政府が中国・朝鮮と結んだ条約の違いを、「領事裁判権」という言葉を使って説明してみよう。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">⇄</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">正対</span> <span style="font-size: 2em;">⇄</span> </div>	
(振り返り) 「学習後の振り返り」を記入させ、学習前の予想と比較させる。 (※それぞれの人物の立場にたつて判断し、物事を多面的・多角的に思考・判断・表現している。)	
3 本時の展開	
【導入】 (1) 前時の確認: 「文明開化」「新政府の政策」⇒富国強兵策「四民平等」「徴兵令」「地租改正」「学制」など →近代化を推し進める新政府の取り組みを確認した上で・・・ 《発問》「もし、あなたが明治政府の大臣だったら、どのような立場をとりますか?」 ☆新政府は「①軍事力:軍隊で領土拡大する!」or「②交渉:外交で条約を結ぶ!」のどちらか? →最初に根拠をもとに個人で予想を立て、最後に「振り返り」で予想をもとに自分の考えを書いてもらう。 予想:「新政府は「〇〇」を優先すべき!なぜなら～～だからである。」 →根拠:「どうしてそう思うのか?」の理由も個人で考えさせる。	
(2) 立てた予想を検証するための「めあて」を提示 「新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。」	
【展開】 《新政府による近代(西洋)化については小学校でも履修済み。「事実確認」は教師中心に行い、生徒は予想等を中心に行う。》(※今回は「使節団」と「国内組」との視点で比較・検討する。)	
(1) P.179にある資料(条約や国境の地図)を参考に、日本と周辺国との力関係を考える。(資料読み取り) ①「日清修好条規」を読み、日本と清との力関係についてペアで話し合う。	
判断 ①	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">日清修好条規(1871年)</p> <p>第1条 日本と清は友好関係を強め、互いの領土を侵略せず、永久に安全なものとする。</p> <p>第8条 日本と清の両国にある貿易港には、互いに役人を派遣し、自国の商人の取り締まりを行う。財産や産業などに関係する事件が起こった場合は、裁判を行い、自国の法律で裁くこととする。(一部要約・抜粋)</p> </div> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○清&gt;日本(清有利)</li> <li>○清=日本(平等)</li> <li>○清&lt;日本(日本有利)</li> </ul> <p style="text-decoration: underline; text-decoration-color: red;">そう考えた内容に線を引く</p> </div> </div>

事実確認1: 当時の日本国内では「富国強兵策」によって、すでに十分な近代化が図られているとの認識。

・大久保らは欧米視察のため、「岩倉使節団」に参加。(使節団)

【課題】

国書の不備、銀行融資の失敗、自国憲法なしなどで欧米から相手にされず。(日本は欧米に比べ、まだまだ近代化が図られていないと痛感)→さらなる富国強兵を!(軍備増強・殖産興業)

【成果】

ドイツの铁血宰相ビスマルクによる憲法や外交の教授→後の「大日本帝国憲法」へ  
留学生による学問の発達=津田梅子による女子英学塾(津田塾)大学など



・西郷らは治安と政府実務のため、「国内組」として残留。(国内組)

→倒幕で戦った武士が困窮=「四民平等」で特権階級剥奪の為

☆元武士による新しい封建制度のため、朝鮮を植民地「征韓論」

事実確認2: 1871年、宮古の人々が台湾の原住民に虐殺される「琉球漂流民殺害事件」発生→1873年、岩倉使節団帰国→1874年、清に賠償請求を断られた日本は「台湾出兵」→琉球を沖縄県へ

事実確認3: 1875年、江華島事件→1876年、「日朝修好条規」締結

②「日朝修好条規」を読み、日本と朝鮮との力関係についてペアで話し合う。

判断  
②

**日朝修好条規(1876年)**

第1款 朝鮮は自立した国で、日本と平等の権利をもつ。

第8款 朝鮮にある貿易港(釜山ほか2港)は、日本の商人や国民を管理する役人を置く。

第10款 日本人が朝鮮の貿易港で罪を犯し、朝鮮人に交渉が必要な事件が起こった場合は、日本の領事が裁判を行う。(一部要約・抜粋)



- 【例】
- 朝鮮>日本(朝鮮有利)
  - 朝鮮=日本(平等)
  - 朝鮮<日本(日本有利)
- そう考えた内容に線を引く

事実確認4: 1855年、「日露通好(和親)条約」締結(安政=江戸時代末期)

③資料4「明治初期の日本の国境と外交」を読み、日本とロシアの国境画定についてペアで話し合う。

判断  
③

**資料4「明治初期の日本の国境と外交」**

1855年 日露通好(和親)条約締結

1858年 日清通商航海条約締結

1860年 日米通商航海条約締結

1868年 日露通商航海条約締結

1871年 日清通商航海条約改定

1876年 日朝修好条規締結

1895年 日清戦争

1905年 日露戦争

1905年 日露通商航海条約改定

1910年 日韓合併

1911年 日露通商航海条約改定

1912年 日露通商航海条約改定

1913年 日露通商航海条約改定

1914年 日露通商航海条約改定

1915年 日露通商航海条約改定

1916年 日露通商航海条約改定

1917年 日露通商航海条約改定

1918年 日露通商航海条約改定

1919年 日露通商航海条約改定

1920年 日露通商航海条約改定

1921年 日露通商航海条約改定

1922年 日露通商航海条約改定

1923年 日露通商航海条約改定

1924年 日露通商航海条約改定

1925年 日露通商航海条約改定

1926年 日露通商航海条約改定

1927年 日露通商航海条約改定

1928年 日露通商航海条約改定

1929年 日露通商航海条約改定

1930年 日露通商航海条約改定

1931年 日露通商航海条約改定

1932年 日露通商航海条約改定

1933年 日露通商航海条約改定

1934年 日露通商航海条約改定

1935年 日露通商航海条約改定

1936年 日露通商航海条約改定

1937年 日露通商航海条約改定

1938年 日露通商航海条約改定

1939年 日露通商航海条約改定

1940年 日露通商航海条約改定

1941年 日露通商航海条約改定

1942年 日露通商航海条約改定

1943年 日露通商航海条約改定

1944年 日露通商航海条約改定

1945年 日露通商航海条約改定

1946年 日露通商航海条約改定

1947年 日露通商航海条約改定

1948年 日露通商航海条約改定

1949年 日露通商航海条約改定

1950年 日露通商航海条約改定

1951年 日露通商航海条約改定

1952年 日露通商航海条約改定

1953年 日露通商航海条約改定

1954年 日露通商航海条約改定

1955年 日露通商航海条約改定

1956年 日露通商航海条約改定

1957年 日露通商航海条約改定

1958年 日露通商航海条約改定

1959年 日露通商航海条約改定

1960年 日露通商航海条約改定

1961年 日露通商航海条約改定

1962年 日露通商航海条約改定

1963年 日露通商航海条約改定

1964年 日露通商航海条約改定

1965年 日露通商航海条約改定

1966年 日露通商航海条約改定

1967年 日露通商航海条約改定

1968年 日露通商航海条約改定

1969年 日露通商航海条約改定

1970年 日露通商航海条約改定

1971年 日露通商航海条約改定

1972年 日露通商航海条約改定

1973年 日露通商航海条約改定

1974年 日露通商航海条約改定

1975年 日露通商航海条約改定

1976年 日露通商航海条約改定

1977年 日露通商航海条約改定

1978年 日露通商航海条約改定

1979年 日露通商航海条約改定

1980年 日露通商航海条約改定

1981年 日露通商航海条約改定

1982年 日露通商航海条約改定

1983年 日露通商航海条約改定

1984年 日露通商航海条約改定

1985年 日露通商航海条約改定

1986年 日露通商航海条約改定

1987年 日露通商航海条約改定

1988年 日露通商航海条約改定

1989年 日露通商航海条約改定

1990年 日露通商航海条約改定

1991年 日露通商航海条約改定

1992年 日露通商航海条約改定

1993年 日露通商航海条約改定

1994年 日露通商航海条約改定

1995年 日露通商航海条約改定

1996年 日露通商航海条約改定

1997年 日露通商航海条約改定

1998年 日露通商航海条約改定

1999年 日露通商航海条約改定

2000年 日露通商航海条約改定

2001年 日露通商航海条約改定

2002年 日露通商航海条約改定

2003年 日露通商航海条約改定

2004年 日露通商航海条約改定

2005年 日露通商航海条約改定

2006年 日露通商航海条約改定

2007年 日露通商航海条約改定

2008年 日露通商航海条約改定

2009年 日露通商航海条約改定

2010年 日露通商航海条約改定

2011年 日露通商航海条約改定

2012年 日露通商航海条約改定

2013年 日露通商航海条約改定

2014年 日露通商航海条約改定

2015年 日露通商航海条約改定

2016年 日露通商航海条約改定

2017年 日露通商航海条約改定

2018年 日露通商航海条約改定

2019年 日露通商航海条約改定

2020年 日露通商航海条約改定

2021年 日露通商航海条約改定

2022年 日露通商航海条約改定

2023年 日露通商航海条約改定

2024年 日露通商航海条約改定



- 【例】
- ロシア>日本(朝鮮有利)
  - ロシア=日本(平等)
  - ロシア<日本(日本有利)
- そう考えた理由も考える(根拠)

事実確認5: 1875年、ロシアと「樺太・千島交換条約」締結→1876年、小笠原諸島、1905年、竹島も編入

【まとめ・振り返り】

新政府は岩倉使節団を派遣し、欧米を参考に近代化を図った。また、清とは領事裁判権の平等な「日清修好条規」、朝鮮とは日本に有利な「日朝修好条規」を結び、ロシアとは「樺太・千島交換条約」を結ぶなど、日本周辺の国境画定を推し進めた。

○今日の学習のまとめ・振り返りを「振り返りシート」に各自で入力する。

(「振り返り」で何を考えたかを評価する)

☆+1【振り返りの祭りの問いかけ】「あなたは、西郷と大久保、どちらの人物に惹かれますか?」

(※本時の重要語句の確認、分かったこと、考えたこと、疑問に思ったことなど)

○次時のお知らせ・・・「2. 南北朝の内乱と新たな幕府」についての告知



4 板書レイアウト等

P.178~(中学校の歴史「帝国書院」)を電子黒板に表示

※自分が考えたそれぞれの国のパワーバランスについては、どちらの国が有利なのか教科書に記入させ、その根拠となる理由など、生徒の意見や考えを黒板に書き残す。

## IX 検証授業の中で改めて感じた「ICT」の可能性について

検証授業で感じた ICT 活用についても言及しておきたい。今回、研究を進める中で改めて考えたことは、今後の教育における「ICT 活用」の可能性である。

視聴覚教材としての有効性はもちろんのこと、生徒の意見や考え、進捗状況の把握、お互いの情報の共有や教師のサポートを含め、多くの可能性を感じた。今後、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を推進していく上でさらなる活用を模索していきたい。

◎授業で「ICT」利用する利点

「まとめ・振り返り」への記入増加文字を書くより、入力の方が早い。また内容の修正も容易である。

生徒も楽♪

◎振り返りシートなどで「ICT」を活用する利点(良さ)

【生徒の利点】

- (1) まわりの意見や考えを参考に自分でまとめやすい。
- (2) 個別・協働しやすく「自分のペース」で学習が可能。
- (3) 取り組みやすい環境で満足度・充実度も高い。

【教師の利点】

- (1) 生徒の視点で課題設定や教材準備がしやすい。
- (2) 個別・全体での取組状況を把握しやすい。
- (3) 生徒の意見・考えの把握やコメントの入力が楽。

教師も楽♪

生徒に活動をさせる時間に教師がフリーになる利点も

## X 研究の成果と課題

### 1. 成果

学級における支持的風土づくりを意識した「ウェルビーイング（心身ともに良好な状態、幸福で満足できる状態＝健康的・精神的・社会的）」と、「身に付けさせたい力（何ができるようになるか）」を意識した授業づくりを行うことで、生徒が学ぶ楽しさを感じることができ、「自己有用感」や「自己肯定感」も高まることが検証できた。また、クラスメイトとの交流を積極的に行うことで、生徒たちの社会性もアップし、授業に向かう「自主性」さらに「主体性」が醸成されつつある。本研究を通して、沖縄県が目指す「自立した学習者」の育成への方向性がみえてきた。

### 2. 課題

教師が「ウェルビーイング」「見通す力」を意識した単元計画・授業づくりを推進することで、生徒の学習に対する意識は高まっているものの、生徒自身による「自学学習」への意欲・行動には課題が残る。「個別最適な学び」を進めることで改善できると考えているので、引き続き取り組んでいきたい。また、与えられた課題に対して自主的に取り組む姿勢が広がっているものの、自ら「問い」を立てて学習に臨む「主体性」の育成にはまだまだ課題が残った。「参加する授業」「役に立つ授業」で「自主性」「主体性」を高めたい。

沖縄県が目指す「自立した学習者」を育成するため、単元デザイン・授業づくりも含め、今後も引き続き、研究テーマに基づき、研究（検討・実践）を進めていく必要がある。

## XI さらに充実させていきたい取組について

### 1. 教科を横断した学びの系統性

社会科の「地理」「歴史」「公民」の各分野の特性を生かし、それぞれの知識が応用できるように仕向けることも大事。教科横断の観点からも他教科との知識や考え方の応用も図っていく。

★「教科を横断した学びの系統性」の強化

今後、さらに強化していきたい！  
取組のイメージ3 「教科を横断した学びの系統性」の意識

「社会科」につなぐ  
○統計資料  
○気候予想  
○組織の略語

☆「社会科」における各分野をつなぐ 授業展開を意識する！

- 歴史を地理に！（国の成立、民族等）
- 地理を歴史に！（地図、地政学等）
- 歴史を公民に！（歴史的背景等）

「社会科」につなぐ  
○資料の読み取り  
○文化の影響

(1) 身につけさせたい概念（応用力） ←今後の展望  
(2) 生徒がわかる喜び<生徒のわくわく感！>  
→生徒の自主性<主体性><「自立した学習者」へ

## 2. 「教員のウェルビーイング」の推進

教員が孤立しないようコミュニティを構築し、教員間の繋がりをさらに強化していきたい。

- ①隣校同士で集まって相談
- ②各種研修等に積極的に参加
- ③小中などの校種間の交流
- ④チャットや冊子作成などを利用して指導案やワークシートなどの資料共有など



★今後もさらにネットワークを広げ、「教員のウェルビーイング」も推進していく。

## 3. 研修を進める中で考えたこと・伝えたいこと

- (1) 真剣に単元・授業づくりに取り組むと楽しい！（単元デザイン・授業や教材づくりはもちろん、発問を考える等、みんなで協力して取り組んでいきたい。）
- (2) 何を考えさせるのか、どう考えさせるのかのしっかりと計画し、学習の見立てを大事にして、「学ぶことが楽しい！」「学びが役に立つ！」という授業づくりに邁進したい。（どうアプローチするのか、「生徒の見取り」も大事にしていく。）
- (3) ネットワークの構築・ウェルビーイング（支持的風土づくり）をもっと充実させる。（子供間、教員間（校内・小中）、所長・主事・指導教授、ICT支援員、OB、地域の人々などとの良好な関係づくり）
- (4) みんなの思い・願いを考えると良くなる「未来」しかない！（子供たちは「次世代の希望」。それを育てる教師がステップアップを続ければ明るい未来しかない。）

## XII 参考文献

- ・「澤井陽介の社会の授業デザイン」「図解 授業づくりの設計図」  
「入門 校内研究の作り方」「これからの社会科教育はどうあるべきか」  
澤井陽介 東洋館出版社
  - ・「個別最適な学びと協働的な学び」  
堀田龍也 さくら社
  - ・「「発問」のデザイン」・「宗實直樹の社会科授業のデザイン」宗實直樹 明治図書
  - ・「中学校社会科教材研究のすべて」「中学校歴史の授業展開&ワークシート」  
川端裕介 明治図書
  - ・「ICT×中学歴史個別最適な学びを実現する授業モデル」  
峯明秀（明治図書）
  - ・「学び方を学ぶ授業」  
難波駿 東洋館出版社
  - ・「モンゴルの歴史」  
宮脇淳子 刀水歴史全書
- ＋学習指導要領「総則」「社会科解説」帝国書院教科書「中学公民」「中学歴史」  
東京書籍「新しい社会6歴史編」  
文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導リーフ  
「16.PDCAのCは、「評価」か「点検」か？」  
「18.「自尊感情」？それとも、「自己有用感」？」